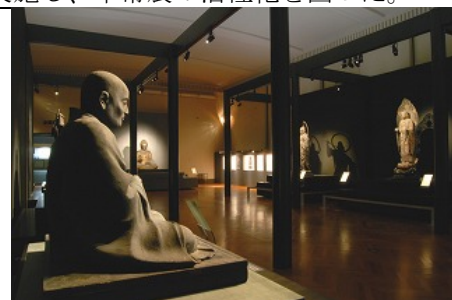


中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ①平常展								
担当者	担当部課	学芸研究部列品管理課		事業責任者	列品管理課長 谷 豊信				
実績・成果	- 本館、平成館、法隆寺宝物館、東洋館において、日本の考古、美術、工芸、民族資料、歴史資料および東洋の考古、美術、工芸に関する平常展示および特集陳列を行った。 - 文化庁との共催により、平成 20 年に新たに指定された国宝・重要文化財を展示した。 - 特別企画として正月に「博物館に初もうで」を開催した。 - 分かりやすく魅力的な展示を目指し、平成館考古展示室の展示の手直しを実施した。 - 本館 2 階の主要展示ケースのガラスに低反射フィルムを貼り、鑑賞の妨げとなる光の写りこみを大幅に減少させた。 - 特集陳列は「黒田清輝のフランス留学」他計 79 件を実施し、平常展の活性化を図った。								
補足事項	- 本年度の特集陳列のうち、「六波羅蜜寺の仏像」と「自在」は、特集陳列のために借用した作品を中心とした展示であった。遠隔地からの輸送費等の経費負担はあったが、内容の充実した展示となり、好評を博した。 - 文化庁との共催で開催した「平成 20 年新指定国宝・重要文化財」では、32 件（うち国宝 1 件、重要文化財 31 件）の新たな指定品をいち早く公開し、文化財行政について周知を図ることができた。 「博物館に初もうで」では、干支にちなんだ特集陳列と伝統芸能にかかわる新春イベントを合わせて行い、好評を得た。新春恒例の行事として、年を追うごとに定着してきており、海外からの来館者も含め、多数の観覧者でにぎわった。 - 法人の考古資料相互貸借事業経費により、福島県埋蔵文化財センター白川館からの借用品を中心に特集陳列「古代技術の保存と復元ー古墳時代金属器の修理・模造・復元ー」を開催した。また長野県立歴史館からの借用品を中心に、「特集陳列 長野県の弥生土器・土師器・須恵器ー土器の変遷と生活の変化ー」を開催した。 - 東京藝術大学美術館、東京文化財研究所および当館が協力し、特集陳列「黒田清輝のフランス留学」を開催した。重要文化財「智・感・情」を含む優品で構成し、他館であれば特別展としてもおかしくない質と規模の展示で好評を博した。				 				
					上:特集陳列「六波羅蜜寺の仏像」 下:特集陳列「黒田清輝のフランス留学」				
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	平常展入場者数	412,675 人	—	—		340,989	361,173	334,297	412,675
	陳列替回数	319 件	200 回	A		320	308	319	319
	陳列総件数	7,172 件	6,000 件	A		10,443	7,283	10,223	7,172
	特集陳列実施回数	79 件	—	—		59	70	84	79
	外国語パネルの設置	97%	80%	A				95%	97%
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、作品キャプションについてはすべてに外国語を付すとともに、展示テーマごとにその時代背景などを説明した外国語パネル等を 80%以上設置する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調に成果を上げている。					



上:特集陳列「六波羅蜜寺の仏像」

下:特集陳列「黒田清輝のフランス留学」

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1)展示の充実 ①平常展								
担当者	担当部課	学芸部			事業責任者	企画室長 赤尾栄慶			
実績・成果	- 定期的な陳列替の実施 39 回 - 陳列総件数 1,081 件 - 時期に応じて、京都文化を中心とした独創的な特集陳列等を実施した - 活発な収集を通じて、新たな資料の発掘に努め、平常展の充実を図る - 特集陳列の企画を実施（4回） 特集陳列「平安時代の考古遺物―源氏物語の時代―」 特集陳列「新収品展」 特集陳列「杉本哲郎 アジャンタ・シーギリヤ壁画模写―70 年目の衝撃―」 特集陳列「坂本龍馬」 - 修理完成記念特別公開展示を実施 「山形・熊野神社の神像」（4/2～/29） - 特別公開「篤姫をめぐる人と刀剣・甲冑」の企画を実施（10/22～2/7）								
補足事項	平常展示館建替工事にともない、平常展示館が平成20年12月7日をもって一時休館した。  特集陳列「杉本哲郎」								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経 年 変 化	17	18	19	20
	平常展入場者数	141,965 人	—	—		153,174	146,752	165,080	141,965
	陳列総件数	1,081 件	650 件	A		2,037	1,550	1,611	1,081
	陳列替回数	39 回	18 回	A		67	59	53	39
	特集陳列実施回数	4 回	—	—		7	8	7	4
	外国語パネル設置	100%	80%	A		—	—	100	100
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展示の充実 ①平常展								
担当者	担当部課	学芸部企画室	事業責任者	企画室長 稲本泰生					
実績・成果	年度を通して本館における平常展「仏教美術の名品」(彫刻部門)、「中国古代青銅器」を開催し、西新館では平常展「仏教美術の名品」(考古・工芸・絵画・書跡部門)を開催した。その中には「繡仏と染織の美」(6月14日～7月13日、西新館)、「とてもよく似た二つの仏像—金峯山寺の釈迦如来像と兵庫県所蔵の天部像」(1月14日～、本館)の特集展示が含まれる。また時節に応じた小ギャラリー「雛人形」(21年2月17日～3月15日)を開催した。陳列替は12回に及んだ。 企画展示としては、「建築を表現する—弥生時代から平安時代まで」(20年6月14日～7月13日、西新館)、「おん祭と春日信仰の美術」(20年12月6日～1月18日、東新館)、「お水取り」(21年2月7日～3月15日、東新館)の計3回の特別陳列を開催した。								
補足事項	① 前年度に引き続き、本館及び西新館において、仏教美術に関しては国内外いずれをとっても他に類をみない、高水準の展示を行うことができた。特筆すべきは本館で好評の「注目の逸品」コーナーを20年11月から西新館にも設置したことで、著名な作品や学芸部が特に選んだ作品を、詳細な解説を付して展示している。また平常展における英文の作品解説を増加させ、外国人来館者に対するサービスをより向上させることができた。 ② 本館平常展では当館修理所にて修理が完了した4件を公開し、文化財修理の意義も併せて紹介した。ことに兵庫県所蔵の天部像はこれと酷似する金峯山寺所蔵釈迦如来像を別途借用して比較展示し、「とてもよく似た二つの仏像」と題する特集展示とした。修理作品の公開に加え、学術的な新知見をも盛り込んだ意欲的な試みとして注目を集め、多くの取材を受けた。 ③ 本館回廊部分にスポット照明設備がないため、非常に質の高い仏像彫刻を展示しているにもかかわらず、その魅力を十分に引き出されていない。					 「仏教美術の名品」 国宝 透彫舍利容器  「とてもよく似た二つの仏像—金峯山寺の釈迦如来像と兵庫県所蔵の天部像」			
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	平常展入場者数	112,849人	—	—		113,983	137,739	131,336	112,849
	陳列替回数	12件	15	B		22	20	21	12
	陳列総件数	605件	800	B		895	1,014	928	605
	陳列総件数	6件				12	11	10	6
	特集陳列等実施件数	77.1%	80%	B				55.8%	77.1%
	外国語パネル等の設置								
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調に成果を上げている。						



「仏教美術の名品」
国宝 透彫舍利容器



「とてもよく似た二つの仏像—金峯山寺の釈迦如来像と兵庫県所蔵の天部像」

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ① 平常展									
担当者	担当部課 企画課			事業責任者		文化交流展室長 河野一隆				
実績・成果	- 文化交流展示室では、当館のテーマである日本の文化交流を重視する観点から、例年通り、計画的に 386 回にわたる展示替えを行い、3146 件の文化財を展示した。 - 展示替え情報は、当館HPやちらし、広報メディアを通じて来館者へ提供した。 - 昨年に引き続いて、文化交流展示室内で期間を限定して、特定のテーマを掘り下げたトピック展示を実施した (17 回)。このうち、当館外部の機関などと共同で主催したトピック展示も 5 回実施した。 - トピック展示ではちらしやポスター、リーフレットや図録などを作成し、関連したシンポジウムも開催して、展示だけでない情報発信ができた。 - 京都泉屋博古館と共同研究を締結し、当館のコレクションには無かった中国古代青銅器の展示を継続的に行うことができるようになった。 - 増え続ける外国からの来館者、とくに中国・韓国からの来館者に対し、中国語ガイドブックおよび英語・中国語・韓国語の簡単な展示解説付きマップを作成し、展示室の内容を紹介した。 - 特集陳列は「あおり縄文展～J OMONを世界へ、三内丸山からの発進～」他計 16 件実施し、好評を博した。									
補足事項	- 国宝・重文を含む多数の優れた文化財による展示、特定の動線を持たない、体験的な展示を多数盛り込んでいる、露出展示品と観覧者の距離が大変近い、といった当館ならではの文化交流展の特徴が理解、定着されつつある。 - 特に、海外からの団体ツアーや個人客へも、ガイドブックやマップを完備し、好評を博している。 - 展示の歴史的背景については、音声ガイドのみの解説であったが、中国語・韓国語による解説文も作成し、ケーステーマに隣接して掲載した。 - 装飾古墳バーチャルシアターは、例年通り新コンテンツを作成し、10 月から公開した。 - 関連第 11 室を 1 室へ改造し、トピック展示開催のためのコストパフォーマンスを向上させた。この結果、昨年度から好評だったトピック展示の開催数は、年間 15 回と 3 倍になり、「あおり縄文展～J OMONを世界へ、三内丸山からの発進～」(11 月 22 日～12 月 21 日、46,050 人来館) のように特別展に匹敵するほどの内容の展示も開催することができた。  「よみがえる弥生都市」展 (8/20～11/16) 上:開会式 下:展示風景									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20	
	平常展入場者数	241,423 人	—	—		211,887	501,540	341,282	241,423	
	特集陳列	17 回	—	A		8	6	5	17	
	作品への外国語キャプション	100%	—	A				100	100	
	時代背景の外国語パネル (音声ガイドで対応を含む)	82%	80%	A				63	82	
	陳列替回数	386 回	100	A		84	299	375	386	
	陳列総件数	3,146 件	1,200	A		1,200	2,044	2,012	3,146	
	年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を 80% 以上設置する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			目標値を計画以上の成果が達成できている。							



「よみがえる弥生都市」展
(8/20～11/16)

上:開会式 下:展示風景

【書式A】

施設名 東京国立博物館・奈良国立博物館

処理番号 2120

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (1/1) 海外展「聖なる山の寺宝 醍醐寺・日本密教の僧院」									
担当者	担当部課	学芸企画部企画課（東博） 学芸企画室（奈良博）			事業責任者	学芸研究部長 島谷弘幸（東博） 企画室長 稲本泰生（奈良博）				
実績・成果	・開会期間 20年4月25日～8月24日（122日間） ・会場 ドイツ連邦共和国国立芸術展覧会ホール ・主催 東京国立博物館、奈良国立博物館、醍醐寺、ドイツ連邦共和国国立芸術展覧会ホール ・作品件数 167件（うち国宝9件、重要文化財74件） ・入館者数 59,998人 ・真言密教の代表的な寺院である醍醐寺に焦点をあて、絵画、書跡、彫刻、工芸といった多岐にわたる分野から代表的な名宝167件を精選し、ドイツ・ボンにおいて展示した。日本仏教、ことに日本密教の歴史と文化の所産である名宝の数々は、来館者の興味関心に大いにこたえるもので、好評を得た。ドイツのみならずヨーロッパ諸国に日本密教の名品を紹介した本展は、日独両国の友好親善に寄与し、ヨーロッパにおける日本の文化的地位の向上に資するものとなった。									
補足事項	・独立行政法人国立文化財機構の2館が共同して事業に取り組んだことにより、独法内での連携強化につながったばかりでなく、より効率的な運営を図ることができた。 ・密教と山岳信仰を軸にきわめて特徴的な仏教文化を開花させた醍醐寺の文化財の意義を国外で紹介し、認知度を高めることに貢献できた。 ・本展への参加を通し、仏教美術の専門館としての当館の特性を、国外にも広くアピールすることができた。 ・調査研究や特別展の開催等、将来の当館の事業に対して協力を得る際に不可欠である醍醐寺との信頼関係を、より強固なものとすることができた。 ・前年度までの準備作業も含めた、東京国立博物館及びドイツ側主催者との共同作業を通して館外のノウハウに接することで、研究員は多くの貴重な経験を蓄積することができた。									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20	
	入館者数	59,998人	—	—						
年度実績評価総括	S ① B C F (S、Fの理由)									
中期計画記載事項	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (1) 展示の充実 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。						順調				



国宝 阿梨帝母像

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (1/8) 平城遷都 1300 年記念「国宝 薬師寺展」									
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	出版企画室長 浅見龍介						
実績・成果	・開会期間 20 年 3 月 25 日～6 月 8 日 (67 日間) ・会場 平成館 特別展示室第 1～4 室 ・主催 東京国立博物館、法相宗大本山薬師寺、NHK、NHK プロモーション、読売新聞社 ・作品件数 47 件 (うち国宝 8 件、重要文化財 5 件) ・入館者数 79 万 4,909 人 ・入場料金 一般 1500 円、大学生 1200 円、高校生 900 円 中学生以下無料 ・アンケート結果 満足度 84.3% ・平城遷都 1300 年を記念し、日本仏教彫刻の最高傑作のひとつとして知られる薬師寺金堂の日光・月光菩薩立像 (国宝) をそろって寺外で初公開した。また、聖観音菩薩立像 (国宝)、吉祥天像 (国宝) などの彫刻・絵画の名宝とともに草創期の薬師寺の姿を物語る考古遺物なども展示することにより、薬師寺の歴史と文化を総合的に紹介することができ、大好評を得た。									
補足事項	・予想を大幅に上回る入場者があったことから、待ち時間が 2～3 時間に及ぶような場合があった。今後、混雑が予想される展覧会では、これまで以上に様々な対策を講じていく必要がある。ただし、会場内では、作品をゆったりした空間で展示したことから、混雑してはいたものの、観覧環境がある程度良好な状態に保つことができた。  チラシ画像									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20	
	入館者数	79 万 4,909 人	40 万人	S						
年度実績評価総括	⑤ A B C F (S、F の理由) 日光・月光菩薩像は、背面も美しいため、360 度見ることができるよう配置し、さらに、プラットホームのような一段高い造作を設けて、来館者がやや上方の視点からも鑑賞できるようにし、薬師寺金堂では実現不可能な空間を創造した。こうしたことから、大多数の方々から好評を博し、目標をはるかに上回る入館者があった。									
中期計画記載事項	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (1) 展示の充実 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年 3～4 回程度									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (2/8) 日仏交流 150 周年記念 オルセー美術館コレクション特別展 「フランスが夢見た日本—陶器に写した北斎、広重」								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	東洋室長 今井敦					
実績・成果	・開会期間 20 年 7 月 1 日～8 月 3 日 (30 日間) ・会場 表慶館 1 階 ・主催 東京国立博物館、オルセー美術館、日本経済新聞社 ・作品件数 132 件 ・入館者数 5万8,342人 ・入場料金 一般 1000 円、大学生・高校生 700 円、中学生以下無料 ・アンケート結果 満足度 70.9% ・日仏両国の間に外交関係が樹立されて150周年に当たる本年、オルセー美術館が所蔵する「セルヴィス・ルソー」と「セルヴィス・ランベール」と呼ばれる陶器を、日本ではじめてまとめて展示した。あわせて、これらのテーブルウェアの図柄のもとになった浮世絵や版画家フェリックス・ブラックモンのエッチングを展示することにより、今まであまり知られていなかった日仏文化交流の豊かな内容の一端を広く紹介することができた。								
補足事項	・フランスにおけるジャポニズム活動に対して、陶器という新たな分野での交流の一面を示すことができ、学術的にも大きな意義があった。  セルヴィス・ルソー 丸皿 伊勢海老に茄子図 オルセー美術館蔵								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	入館者数	5 万 8, 342 人	5 万人	A					
年度実績評価総括	S ① B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (1) 展示の充実 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年 3 ～ 4 回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (3/8) 創刊記念『國華』120周年・朝日新聞130周年 特別展「対決—巨匠たちの日本美術」								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	上席研究員 松原茂					
実績・成果	・開会期間 20年7月8日～8月17日 (37日間) ・会場 平成館 特別展示室第1～4室 ・主催 東京国立博物館、國華社、朝日新聞社 ・作品件数 110件 (うち国宝11件、重要文化財39件) ・入館者数 32万6,784人 ・入場料金 一般1500円、大学生1200円、高校生900円 中学生以下無料 ・アンケート結果 満足度 85.3% ・運慶と快慶、狩野永徳と長谷川等伯など、美術研究専門誌『國華』が誌上で顕彰してきた中世から近代までの日本美術史上に輝く巨匠たちを2人ずつ組み合わせ、その作品を「対決」させるという斬新な展示構成により、日本美術の特質や素晴らしさを一般にわかりやすい形で紹介した。過去2年間の展覧会アンケートの中では、最も高い満足度を得た。								
補足事項	・これまでの展覧会の内容とかなり異なった「対決」という視点に対して、予期した以上に大きな反響があり、それが多数の観客の動員につながった面がある。  チラシ画像								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	入館者数	32万6,784人	12万人	S					
年度実績評価総括	⑤ A B C F (S、Fの理由) わかりやすいテーマ設定や充実した内容によって、目標を大きく上回る入場者を数え、アンケート調査にも見られるように、近年の特別展では最も高い評価を得た展覧会の一つとなった。								
中期計画記載事項	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (1) 展示の充実 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調						

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 2121-4

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (4/8) 「スリランカ輝く島の美に出会う」								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	平常展調整室長 小泉恵英					
実績・成果	・開会期間 20年9月17日～11月30日 (65日間) ・会場 表慶館 1階・2階 ・主催 東京国立博物館、読売新聞、スリランカ民主社会主義共和国文化・国家遺産省 ・作品件数 198件 ・入館者数 8万865人 ・入場料金 一般1200円、大学生1000円、高校生800円、中学生以下無料 ・アンケート結果 満足度 80.0% ・仏像やヒンドゥー神像、仏具などの宗教芸術作品や、美しい宝石をふんだんにあしらった宝飾品など、国宝級を含む約200件におよぶスリランカ美術の粋を一堂に集めて展示した。スリランカの仏教美術をまとめて紹介した、日本で初めての本格的な展覧会として画期的なものであり、両国の友好親善に寄与することができた。 一般には南アジアの美術に対する関心が予想以上に低く、目標入館者数を下回った。								
補足事項	・スリランカ国をあげて展覧会に対して全面的な協力をいただき、その結果、諸外国でこれまで開催したスリランカの文化・美術に関する展覧会と比較しても、高水準の内容となった。  スリランカ展チラシ								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	入館者数	8万865人	10万人	B					
年度実績評価総括	S ① B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (1) 展示の充実 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			ほぼ順調						

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 2121-5

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (5/8) 尾形光琳生誕 350 周年記念「大琳派展—継承と変奏—」									
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	絵画彫刻室長 田沢裕賀						
実績・成果	・開会期間 20 年 10 月 7 日～11 月 16 日 (36 日間) ・会場 平成館 特別展示室第 1～4 室 ・主催 東京国立博物館、NHK、NHK プロモーション ・作品件数 242 件 (うち国宝 7 件、重要文化財 34 件) ・入館者数 30 万8, 213人 ・入場料金 一般1500円、大学生1200円、高校生900円、中学生以下無料 ・アンケート結果 満足度 84.7% ・尾形光琳の生誕350年を記念し、光悦・宗達・光琳・乾山・抱一・其一の六人を中心に、個性豊かな琳派の世界を紹介した。琳派の系譜と各作家の独自性を具体的に検証することにより、およそ100年ごとに花開いた琳派芸術の特色とその意義について明らかにした。絵画・書跡・工芸など各分野の国宝・重要文化財はもちろん、海外の美術館が所蔵する琳派の優品を一堂に集めた結果、アンケートに見るように、過去最高に近い満足度を達成した。									
補足事項	・総花的な琳派展ではなく、作者や作品を一定の範囲に絞り込んだことによって、より理解しやすく、かつ水準の高い内容となった。  チラシ画像									
定 量 的 評 価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20	
	入館者数	30 万 8, 213 人	14 万人	S						
年度実績 評価総括	S ① B C F (S、F の理由)									
中 期 計 画 記載事項	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (1) 展示の充実 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年 3 ～ 4 回程度									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調						

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 2121-6

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (6/8) 「慶應義塾創立 150 年記念 特別展「未来をひらく福澤諭吉展」」								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員 三笠景子					
実績・成果	・開会期間 21 年 1 月 10 日～3 月 8 日 (50 日間) ・会場 表慶館 1 階・2 階、本館特別 2 室 ・主催 東京国立博物館、慶應義塾、フジサンケイグループ (主管:産経新聞社) ・作品件数 346 件 (うち国宝 3 件、重要文化財 17 件) ・入館者数 7万3,128人 ・入場料金 一般1200円、大学生1000円、高校生800円 中学生以下無料 第 1 会場(表慶館)は上記観覧料が必要。第 2 会場(本館特別 2 室)は、<u>平常展料金</u>でも観覧可能。 ・アンケート結果 満足度 87.4% 本展覧会は、慶應義塾創立 150 周年を記念して開催したもので、福澤諭吉の遺品、遺墨、書簡、自筆草稿、著書などをおとして福澤の先導的な思想と活動を紹介するとともに、慶應義塾ゆかりの美術品などを展示した。表慶館だけでなく、本館特別 2 室に釈迦金棺出現図などの名品を展示することで、多角的な展示となり、観覧者からは好評を得たが、文化財を展示する東京国立博物館の通常の展示と異なり、資料的な展示品が多数をしめ、また、広報面での内容周知が必ずしも十分ではなかったことなどから、目標入場者数には達しなかった。								
補足事項	貴重な歴史資料を紹介しながら、明治という時代を浮き彫りにしたことで、学術的に高度な内容を平易に紹介することにつながった。  『未来をひらく福澤諭吉』展チラシ								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	入館者数	7 万 3, 128 人	10 万人	B					
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (1) 展示の充実 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年 3～4 回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調に成果を上げている。						

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 2121-7

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (7/8) 「開山無相大師 650 年遠諱記念 特別展「妙心寺」」								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課			事業責任者	特別展室長 救仁郷秀明			
実績・成果	・開会期間 21 年 1 月 20 日～3 月 1 日 (36 日間) ・会場 平成館 特別展示室 第 1 室～第 4 室 ・主催 東京国立博物館、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺、読売新聞東京本社 ・作品件数 176 件 (うち国宝 4 件、重要文化財 43 件、重要美術品 2 件) ・入館者数 15万1,833人 ・入場料金 一般1200円、大学生1000円、高校生800円 中学生以下無料 ・アンケート結果 満足度 73.8%(未集計) ・開山無相大師 650 年遠諱にちなみ、本山および塔頭の名宝を中心に、妙心寺の歴史と文化について紹介した。東京では大規模な妙心寺展は初めてであり、好評を得た。								
補足事項	首都圏ではよく知られていない妙心寺の作品、なかでもとくに近世の華やかな襖絵・屏風が注目され、当初の予想を超える入館者数を得た。  チラシ画像								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	入館者数	15 万 1,833 人	10 万人	A					
年度実績評価総括	S ① B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (1) 展示の充実 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年 3 ～ 4 回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 2121-8

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (8/8) 海外展 東京国立博物館所蔵日本美術展「サムライー日本の武家の宝物」								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	上席研究員 原田一敏					
実績・成果	・開会期間 20年5月23日～7月16日(55日間) ・会場 モスクワ クレムリン博物館 ベルタワー展示室及びパトリアーク宮殿柱の間 ・主催 東京国立博物館、ロシア連邦モスクワ・クレムリン博物館 ・作品件数 73件(うち国宝1件、重要文化財4件) ・入館者数 10万2,000人 ・入場料金 ー ・アンケート結果 実施せず ・東京国立博物館が収蔵する文化財の中から、日本の武家文化に関わる優品を特に選んで展示し、海外における日本文化紹介の一助とした。東京国立博物館のコレクションがまとまった形でロシアにおいて紹介されたのは今回が初めてのことであり、ロシアの人々に優れた日本の古美術品に親しんでいただく絶好の機会となった。1日あたりの入場者数は、クレムリン博物館の企画展史上、最も多数にのぼり、大変な好評を博した。								
補足事項	・ロシア国内の新聞やテレビ等において、頻繁に報道されるなど、ロシアにおける日本文化に対する関心の高さがうかがわれた。 ・アメリカ、トルコ、ヨーロッパ等で所蔵品による展覧会を計画している。こうした展覧会は、日本の伝統文化普及に資するものとして重要であり、開催地での日本文化に対する関心を高める意味で非常に重要な役割を担うことが期待される。  自在龍置物								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	入館者数	10万2,000人	ー	ー					
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (1) 展示の充実 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (1/3) 特別展覧会「絵画の冒険者 暁斎 Kyosai ―近代へ架ける橋―」								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者			連携協力室長 山下善也			
実績・成果	浮世絵・狩野派を学び、幕末・明治期の江戸・東京で活躍した河鍋暁斎（1831～89）の画業を回顧する展覧会。暁斎のユニークな画風は特に海外で大きな関心と呼んできたが、暁斎の全貌をうかがえる展覧会はこれまでになかった。奇想的な作品はもとより、暁斎の骨格を形づくった狩野派的側面を知ることのできる作品を網羅した初の大規模展となった。 ・開催期間 4月8日～5月11日(30日間) ・会場 特別展示館 ・主催 京都国立博物館、(財)河鍋暁斎記念美術館 ・陳列品総件数 135件 ・海外からの出陳件数 24件 (大英博物館、ライデン国立民族学博物館、イギリス：イスラエル・ゴールドマンコレクション) ・入場者数 7万6,686人(目標3万人) ・入場料金 一般 1200円、大高生 800円、中小生 400円 ・アンケート結果 満足度 94%								
補足事項	・準備の調査過程で新出の暁斎作品を数多く見出し、初公開することができた。代表作の公開と合わせ、今後の暁斎研究、近世・近代絵画研究に新たな筋道を提示した。 ・イギリスから23件、オランダから1件と、海外からの出品作も充実させることができ、総合的な紹介を実現した。 ・単純な時系列の展示ではなく、「1. 「狂斎」の時代、2. 冥界・異界、鬼神・幽霊、3. 少女たつへの鎮魂歌、4. 巨大画面への挑戦、5. 森羅万象、6. 笑いの絵画、7. 物語、年中行事、8. 暁斎の真骨頂」というように、画面の形態や主題などの点で、変化にとんだ展示構成をとった。これにより、暁斎画の特色や魅力を感じ取ることができ、その間に「本画と下絵」「写生と粉本」という特集をはさみ、絵が生まれる秘密を解き明かせるよう工夫した。  「暁斎」展チラシ ・本格的な規模としては初の暁斎大回顧展ということもあり、さまざまなメディアで取り上げられた。その結果、わずか1か月（実質30日）の開催期間にもかかわらず、多くの数の入館者を記録した（1日平均2474人）。 ・展覧会図録の購買率も高く、約16000冊、4.3人に一人、25%近くの方が図録を求められた。また、インターネットのブログには、開幕初日から「展覧会をみて大変おもしろかった」という感想が多くの人々により記され、その記述は日を追って増え、閉幕時には、目を通しおおせないほどになった。監視者から、どの観覧者も滞留時間が長かったという報告もあった。いずれも、展示内容に対する反応の大きさを物語っている。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	入場者数	76,686人	30,000人	A					
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (京都国立博物館) 年2～3回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (2/3) 特別展覧会「japan 蒔絵 ―宮殿を飾る 東洋の燦めき―」								
担当者	担当部課	学芸部			事業責任者	主任研究員 永島明子			
実績・成果	16 世紀末以来、京都で作られ海外に輸出された日本の蒔絵は、富と権力の象徴として各国の王侯貴族に愛された。その輸出量は蒔絵の歴史に少なからぬ影響を与えた。欧州各国の貴重なコレクションに国内の名品を加え、輸出漆器の歴史を紹介する初の大規模展覧会となった。 ・開催期間 10 月 18 日～12 月 7 日 (44 日間) ・会場 特別展示館 ・主催 京都国立博物館 読売新聞大阪本社 NHK 京都放送局 ・陳列品総件数 284 件 うち海外資料 164 件 (57.7%) ・国宝 5 件 重要文化財 12 件 重要美術品 1 件 ・初公開作品 155 件 (54.6%) うち世界初公開 56 件 (19.7%) ・入場料金 一般 1,400 円、大高生 900 円、中小生 400 円 ・入場者数 67,050 人 (目標 5 万人) ・アンケート結果 満足度 95%  「japan 蒔絵」チラシ 輸出磁器ほど知られていない輸出漆器の歴史を、マリー・アントワネットやボンパドゥール侯爵夫人などにゆかりの実物作品によって通観できるこれまでにない展示となった。 展覧会図録を日英バイリンガルとした結果、日本語を読めない人々へも京都の文化を紹介することができた。海外からも図録の要望が寄せられた。 指定文化財の展示規制上、実現不可だが、ヨーロッパへの巡回希望も多く寄せられた。 陳列品中イギリスの V&A 美術館の所蔵品が、アメリカ合衆国ロサンゼルス・ゲッティ美術館へ巡回することになり、本展の作品解説が採用され、図録 350 冊が買いとられた。								
補足事項	・スウェーデン王室はじめ海外 11 機関から全面的賛同を得て、非公開品やヨーロッパ内でも貸し出しの難しい品の数々を、日本に居ながらにして見ることでできる展覧会となった。 ・国内所蔵者の協力を得て、平安時代からの国内伝世品を同時に並べることにより、輸出漆器の特徴が顕著となり、蒔絵の様式変化を歴史を追って目の当たりにできる展示となった。 ・観覧者の多くが蒔絵の魅力に開眼したとか、蒔絵の見方が変わったとの感想を寄せてくださり、京都で育まれた日本の伝統工芸の魅力を広く紹介することと、多くの人に新しい知の世界を切り開く機会を提供することができ、有意義であった。 ・展示数はすでに十分すぎるほどではあったが、予算の関係上、海外所蔵者の地域を限定せざるを得ず、たとえば中国に輸出された蒔絵の優品を展示することができなかった。アジア諸国への輸出も研究が熟していないため、展覧会に含めることができなかった。しかし、アジア地域との関連性をパネルで説明した結果、日本の輸出漆器と世界史の関係性を理解していただくことができた。いずれ実物展示がなされることが望ましい。 ・展示室の設備が古く、予算も限られているため、工芸品を美しく展示するための台や照明を十分に用意できなかった (再利用した展示台の高さが高すぎる場合が多かった)。今後は展覧会予算内の配分に一層の工夫を凝らしたい。また展示ケースや照明設備の改善を期待したい。 ・近代の万国博覧会への流れは紹介できたが、近代の蒔絵の優品は展覧会に含まれなかった。いずれ近代美術館などの協力を仰ぎ、別の展覧会として企画したい。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	入場者数	67,050 人	50,000 人	A					
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (京都国立博物館) 年 2～3 回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				



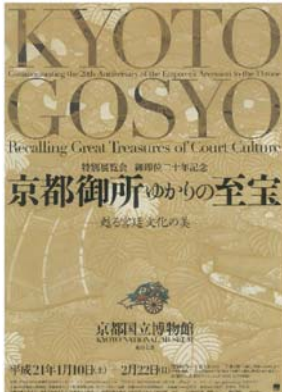
「japan 蒔絵」チラシ

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号 2122-3

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (3/3) 特別展覧会「御即位二十年記念 京都御所ゆかりの至宝一甞る宮廷文化の美」								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者			工芸室長 久保智康			
実績・成果	京都御所で歴代天皇が育んだ豊穡な宮廷文化の全貌を顧みる展覧会。御所をはじめ宮内庁で伝えてきた品々に加えて、天皇の下賜品や移築された御所建物に付属する障壁画の名品までを一堂に展観するはじめての機会となった。 ・開催期間 21年1月10日～2月22日(45日間) ・会 場 特別展示館 ・主 催 京都国立博物館、京都新聞社、NHK京都放送局、NHK ブラネット近畿 ・陳列品総件数 130 件 ・海外からの出陳件数 0 件 ・入場者数 116,363 人(目標 3 万人) ・入場料金 一般 1300 円、大高生 900 円、中小生 400 円 ・アンケート結果 満足度 87%								
補足事項	・絵画、工芸の各分野担当者が京都御所において調査を行い、その成果をもとに宮内庁京都事務所からの出品作品を決定した。その結果、多くの作品が宮内庁以外で初公開されることとなり、各人の専門的な立場からの新見解を展示・図録に多く盛り込むことができた。 ・宮内庁の特別協力を得て、御物を所管する侍従職をはじめ、書陵部・三の丸尚蔵館・京都事務所の各機関から、これまでにない多数の出品を得ることができた。 ・1 京都と天皇の遺宝、2 桂宮家と桂離宮、3 宮廷と仏教、4 宮廷の装束、5 御所の工芸、6 紫宸殿の荘厳一賢聖障子絵一、7 御所をかざった障壁画、8 御所の障屏画、という 8 つのテーマで構成し、宮廷美術の特色が各コーナーごとに明確になるよう配慮した。  「京都御所ゆかりの至宝」チラシ ・宸翰や、装束、といった通有の宮廷文化の要素だけでなく、篤い仏教信仰のもとに生み出された仏教美術、かつて御殿をかざった障壁画が想像以上に京都周辺の門跡寺院等に移築され、いまも用いられていることなど、新たな宮廷美術の視点を示すことができた。 ・以上のような配慮により好評を博すことができ、比較的入館者が厳しい冬の開催ながら、目標を大きく上回る 11 万人余の入場者を得ることができた。また TV、ラジオ、新聞、雑誌等の取材もきわめて多く、さらに芦屋市・宇治市・京都市中京区などの各文化センターで、本展を紹介する講演を行って、非常に大きな関心呼んだ。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	入場者数	116,363 人	30,000 人	A					
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (京都国立博物館) 年 2 ～ 3 回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1)展示の充実 ②特別展 (1/4) 「天馬ーシルクロードを翔ける夢の馬ー」								
担当者	担当部課	学芸部教育室	事業責任者	教育室長 吉澤 悟					
実績・成果	・会 期 4月5日(土)～6月1日(日)までの58日間(開館は50日間)。 ・会 場 東西新館 ・主 催 奈良国立博物館 ・陳列品総数 163件(うち国宝8件、重文22件、イタリアから12件、アメリカから7件、中国から12件の一級文物クラスの作品を借用・展示) ・入場者数 3万1,910人(目標3万人) ・観覧料金 一般1,000円、高・大生700円、小・中生無料 ・アンケート満足度 81% ・シルクロードを通じた西洋と東洋の文化交流を扱った本展覧会は、当館が独自に企画した特別展としては初めての試みである。 ・財団法人全国競馬・畜産振興会を共同主催に迎え、さらにエクソン・モービル社からの後援を仰ぐなど、実業界との新たな共同事業を開拓し得た。								
補足事項	・ユーラシア大陸を俯瞰するスケールの大きさは、近年の展覧会には珍しいものであり、相応の評価を得ている。ペガサスの意匠によって、ギリシア文化と法隆寺の宝物がつながることを示したことは、毎年正倉院展を擁し、かつ仏教美術を得意とする当館の活動の裾野の広さを示すものであり、国際的役割を象徴する事業であった。 ・広報面で準備不足なところがあり、入館者数は必ずしも伸びていない点が反省される。  天馬展チラシ								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	入場者数	31,910人	30,000人	A					
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (奈良国立博物館) 年2～3回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			ほぼ順調						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1)展示の充実 ②特別展 (2/4) 国宝 法隆寺金堂展								
担当者	担当部課	学芸部			事業責任者	部長補佐 岩田茂樹			
実績・成果	・開会期間 6月14日～7月21日 (33日間) ・会場 東新館 ・主催 奈良国立博物館、朝日新聞社、法隆寺 ・陳列件数 27件 (うち指定品13件) ・入場者数 13万2,919人 ・観覧料金 一般 1,200円 高・大生 800円 小・中生 500円 ・アンケート結果 満足度 75% ・出陳件数こそ少ないものの、世界遺産・法隆寺金堂に安置される仏像のうち釈迦三尊・薬師如来像を除く全てが出陳された。とりわけ、会期半ば以降とはいえ、わが国最古の四天王像(国宝)が4躯全て出陳されたことは空前絶後のことで、多くの方から高い関心を集めた。								
補足事項	・金銅外陣にはめこまれている壁画12面が全て出陳され、会場内を金堂内部空間を再現したかのような濃密な仏教的空間することができた。 ・修理完了後もない中の中・西の間の天蓋や、釈迦三尊、阿弥陀三尊、薬師如来像の台座など、今後、金堂そのものの解体修理でもないかぎり、出陳の不可能な作品を間近に鑑賞する唯一の機会を設けることができた。 ・展示に際しては、照明方法に工夫をこらした。とくにフレーミングスポットや、電球色 LED とディフューザーの併用により、高い効果をあげることに成功し、好評を博した。 ・図録は今後の決定版ともいうべき充実した内容の豪華本としたが、当初印刷分を完売し、増刷を行った。					 国宝法隆寺金堂展チラシ			
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	入場者数	132,919 人 件 件 件 —	40,000 人 — — — —	S — — — —					
年度実績評価総括	⑤ A B C F (S、Fの理由) 新しい照明方法の導入等により、大きな成果をあげ、それが来館者増にもつながったと考えられるため。								
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (奈良国立博物館) 年2～3回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				



国宝法隆寺金堂展チラシ

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1)展示の充実 ②特別展 (3/4) 西国三十三所展									
担当者	担当部課	学芸部教育室	事業責任者	教育室研究員 清水 健						
実績・成果	・主催 奈良国立博物館、NHK 奈良放送局、NHK サービスセンター、NHK プラネット近畿、読売新聞大阪本社 ・特別協力 西国三十三所礼所会 ・会期 8月1日～9月28日 (52日間) ・会場 奈良国立博物館 東・西新館 ・出陳件数 190件 (国宝10件、重文60件) ※2会場合計では195件 ・入場者数 10万6,411人 (目標3万人) ・観覧料金 一般1,200円 高・大生800円 小・中生500円 ・アンケート結果 満足度89%									
補足事項	観音霊場の祈りと美 西国三十三所  西国三十三所展チラシ  展示室風景 (巡礼絵図を興味深くみる観覧者) ・本展覧会は平成20年10月18日～11月30日の会期で、やや件数を減らして名古屋市博物館に巡回し、当地でも好評を得た。 ・本展覧会は2館を巡回する共催展であったが、展示構成、展示品については終始当館学芸部を中心に検討をし、当館学芸部が主体的役割を果たして決定した。 ・西国三十三所をテーマにした展覧会は他館で過去2回開催されていたが、秘仏を含む新資料を加え、最新の研究動向を踏まえて、新たな切り口を設けて展示を構成した。 ・52日間とやや長い会期であったが、三十三所の各礼所の所蔵品がいつ来館しても1点以上みられるよう、展示替に工夫を凝らし、来館者の満足度を高められるよう努力した。 ・図録の販売部数は7907冊 (購入率7.46%)、音声ガイドの貸出台数は9903台 (利用率9.38%)、いずれも当初の予想以上に高かった。 ・会場の最後に巡礼絵図を複写拡大した特殊加工シート (約6×7メートル) を床面に貼付し、来館者に絵図上に乗って巡礼気分を味わってもらう試みが奏功し、好評を博した。 ・会期中に借用した文化財の光学調査を行い、大きな成果を得た。またこれを直ちに報道発表し、集客へもつなげた。加えて講演会も実施し、調査の知見の普及に努めた。									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20	
	入場者数	106,411人	30,000人	S						
年度実績評価総括	㊟ A B C F (S、Fの理由) 当初目標を大きく上回る来館者が得られた。									
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (奈良国立博物館) 年2～3回程度									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調に成果を上げている。							



西国三十三所展チラシ



展示室風景 (巡礼絵図に興味深くみる観覧者)

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1)展示の充実 ②特別展 (4/4) 第 60 回正倉院展								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	部長補佐 内藤 栄					
実績・成果	・開会期間 10 月 25 日～11 月 10 日 (17 日間) ・会 場 東西新館 ・主 催 奈良国立博物館 ・陳列品総件数 69 件 (うち初出陳 18 件) ・入場者数 26 万 3,765 人 (目標 18 万人) ・観覧料金 一般 1,000 円、高・大生 700 円、小・中生 400 円 ・アンケート結果満足度 75% ・正倉院展は正倉院宝物が一般に公開される唯一の機会であり、毎年多くの観覧者を迎えている。 ・今年度は 17 日間の会期では最高の入館者数を数えたが、会場の混乱は例年より少なく、またアンケートによる満足度は昨年や一昨年を上回ることができた。 ・第 60 回目の今年は、白瑠璃碗や紫檀木画双六局をはじめとする優品 69 件が出品された。 ・今年の傾向は佩飾品、天蓋などの荘厳具が比較的多く含まれていること、そして紅龍、椰子実などの異色の宝物が出品されたことも特筆される。 ・天皇皇后両陛下の行幸啓、高円宮妃殿下のご視察があった。								
	補足事項	・展覧会目録のほか、60 回を記念し、『正倉院展 60 回のあゆみ』、『正倉院宝物に学ぶ』を出版した。 ・会期中に 3 回の公開講座のほか、毎日 5 回 (土曜日は講座のため回数が減る) のボランティア解説、シンポジウムを開催した。 ・宝物の安全、および会場混雑の解消のため、ケースを囲む手摺りを 2 箇所試験的に造作し、期待通りの効果を得た。 ・混雑によるケース内の環境変化を防ぐため、気密性と調湿性に優れたケースを導入し、期待通りの効果を得ることができた。							
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	入場者数	263,765 人	180,000 人	A		234,391	283,515 (20 日間)	248,389	263,765
年度実績評価総括	S ① B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (奈良国立博物館) 年 2 ～ 3 回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				



白瑠璃碗と手摺り付き展示ケース

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展示の充実 ② 特別展(1/4) 国宝 大絵巻展								
担当者	担当部 課	企画課	事業責任者	資料管理室 畑 靖紀					
実績・成果	・ 開会期間 3月22日(土)～6月1日(日)(64日間) ・ 会 場 特別展室 ・ 主 催 九州国立博物館、西日本新聞社、RKB 毎日放送 ・ 陳列品総件数：26件(国宝9作品・重文14作品) ・ 入場者数：131,197人(目標入場者数10万人) ・ 入場料金：一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円 ・ アンケート結果：満足度94% ・ 京都国立博物館所蔵品および寄託品を中心として平安時代から室町時代にいたる国宝・重文の絵巻20数件を展示し、独特の表現手法をもつ日本の美術と文学の織りなす魅力的な物語絵巻の世界を紹介。展示構成は第一章「あつめるー王朝の絵巻ー」、第二章「つたえるー高僧の生涯ー」、第三章「ささげるー神仏への信仰ー」、第四章「たのしむー御伽草子の世界ー」の構成からなる。								
補足事項	・ 絵巻に焦点をあてた大規模な展覧会としては九州ではじめてのものである。 ・ 1作品の展示場面を長くすることで物語を追って見てもらうことができた。 ・ 絵巻の特徴である「さわる」鑑賞者との近い距離、「うごかす」くり広げる動作が必要ということ、展示手法で観覧者に体感してもらう工夫をした。前者としては展示台を新規作成し、展示ケースガラス面により近く設置した。後者としては、教育普及体験ゾーンにて「絵巻をうごかす」体験キットを設置した。 ・ 展示室内に映像コーナー2箇所を設け、京都の公家・社寺・民衆の歴史と美術を紹介するとともに、絵巻の物語をわかりやすく絵解きして紹介した。 ・ 記念講演会「絵巻の面白さと読み方」(夏目房之介氏)、「描かれた物語ー絵巻の世界」(若杉準治氏)、「絵巻の魅力ー物語の楽しみ方」(畑靖紀研究員)のほか、おしゃべり絵巻朗読会を企画実行した。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20
	入場者数	131,197人	100,000人	A					
年度実績評価総括	㊟ A B C F (S、Fの理由) 入場者数が目標値を上回った。図録の普及につとめ、図録購入者が入場者の5%に達し、九博では従来にない高い数値を示した。								
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			計画以上の成果を上げた。						



国宝 大絵巻展展示風景 1



国宝 大絵巻展風景 2

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 2124-2

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(1) 展示の充実 ② 特別展(2/4) 島津の国宝と篤姫の時代展									
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	保存修復室長 藤田 励夫						
実績・成果	・開会期間 7月12日～8月24日(40日間) ・会 場 特別展室 ・主 催 九州国立博物館、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、西日本新聞社 ・陳列品総件数：100点(うち国宝:49点、重要文化財:18件) ・入場者数：15万2,420人(目標入場者数 5万人) ・入場料金 一般1,200円、高大生900円、小中生無料 ・アンケート結果 満足度80% ・第一章「国宝「島津家文書」の世界」、第二章「対外交流の窓口」、第三章「東大の名宝」の構成からなり、展示作品は絵画・書跡・考古・工芸の多彩な分野にわたる。 ・山本博文(東京大学史料編纂所教授)と女優・真野響子氏の対談(収録・テレビ放映あり)、NHK大河ドラマ「篤姫」に出演した宮崎あおい氏と堺雅人氏のトークショー(収録・テレビ放映あり)、書家・武田双雲氏による書イベントを企画実行した。									
補足事項	・東大史料編纂所の所蔵資料を公開する特別展は、東京以外の地では初めての開催であり、その開催意義は大きい。 ・幕末の薩摩藩と日本、海外交流の窓口であった九州というテーマを設定したが、このテーマは当館・文化交流展示室のテーマとも重なる。本展を文化交流展示室と合わせて観覧していただくことにより、テーマ理解への相乗効果が高まった。 ・会期が夏休みにかかることもあり、難解な歴史資料をわかりやすく解説した教育普及リーフレット、グラフィックを作成した。また、キャプションを通常より大型化し、文字を読みやすくするなど工夫した。 ・図録は、雑誌風の体裁とし、論文のほかコラムを多く掲載、好評を得て完売した。 ・NHK大河ドラマ「篤姫」の影響により、本展への関心が高かったため、ドラマで使用された衣装や小道具を展示。観覧者の好評を得た。 ・「篤姫」への関心を、「篤姫」関連以外の作品へ結びつけることが難しかった。									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20	
	入場者数	152,420人	50,000人	A						
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)									
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調に成果を上げている。							



島津の国宝と篤姫の時代展風景

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 2124-3

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ② 特別展(3/4) 「国宝 天神さまー菅原道真の時代と天満宮の至宝ー」								
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	研究員 松川博一					
実績・成果	・開会期間 9月23日～11月30日(60日間) ・会場 特別展室 ・主催 九州国立博物館、太宰府天満宮、西日本鉄道株式会社、西日本新聞社、TNCテレビ西日本、TVQ九州放送 ・陳列品総件数：120件(うち国宝:18点、重要文化財:21点) ・入場者数：174,698人(目標入場者数 10万人) ・入場料金 一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円 ・アンケート結果 満足度90% ・第1部 菅原道真 波乱の生涯、第2部 天神信仰のひろがり、第3章天神さまの芸能とまつりとして構成し、展示作品は考古・工芸・彫刻・絵画・書跡の分野にわたる。 ・開催記念トークショー、天神さまの門前町サミット、記念シンポジウム「天神さま太宰府」、国宝北野天神縁起絵巻平成記録本展、北野天神縁起絵巻シンポジウム、天神さま研究所報告会などの催事を企画実行した。 ・福岡県内の児童約28万5千人に特製招待券を配布し、来館児童にガイドブック「天神さま学習帳」を配布した。								
補足事項	・本展は西日本鉄道創設100周年記念としての位置づけもあることから、西鉄福岡駅ステーションジャック(9月24日～9月30日)や吊革公告(9月10日～11月30日)などの広報事業を展開し、展覧会の認知度向上に成果をもたらした。 ・本展は地元ゆかりのテーマであることから、太宰府天満宮参道商店街関係者の特別招待や、福岡県内児童への特製招待券配布など地元に対する働きかけを強化させた。 ・WEBを活用して天神情報をひろく募集し、その成果を特別展会場内で紹介し好評を得た。また、寄せられた天神情報については報告会を開催し、広く市民への還元を試みた。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	入場者数	174,698人	100,000人	A					
年度実績評価総括	⑤ A B C F (S、Fの理由) 太宰府天満宮との関係強化、目標を上回る入場者数								
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調に成果を上げている。						



国宝 天神さま展示風景

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 2124-4

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ② 特別展(4/4) 「工芸のいま 伝統と創造 ―九州・沖縄の作家たち―」								
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	企画課長	伊藤嘉章				
実績・成果	・ 開会期間 1月1日(木)～3月16日(月)(65日間) ・ 会 場 特別展室 ・ 主 催 九州国立博物館、日本工芸会西部支部、朝日新聞社、NHK福岡放送局 ・ 陳列品総件数：161件(うち人間国宝 第1部7人 第2部21人) ・ 入場者数：72,637人(目標入場者数8万人) ・ 入場料金：一般1,200円、高大生900円、小中生400円 ・ アンケート結果：満足度88% ・ 第1部 日本工芸会西部支部の現役正会員137人による2000年以降の代表作。 ・ 第2部 九州・沖縄の工芸の隆盛をもたらした作家21人の代表作。 ・ 北野武監督阿川佐和子氏トークショー、金子賢治氏講演会、碗琴演奏会、出品作家の作品による茶会、茶のセミナー、博多山笠・唐津くんち座談会などを開催。 ・ 陶芸部会、染織部会では講師を招いての研究会を開催。								
補足事項	・ 本展は国立博物館として初めて本格的に無形文化財の展示を行なったもの。 ・ 九州沖縄の地場産業とも関りの深い伝統工芸の作家に焦点をあてることで、九州に立地する国立博物館としての役割を果たした。 ・ 九州・沖縄の現役作家については、研究員によって調査を行い、それにより展示・図録の制作を行なった。これにより、作家、観客から高い評価を得ることが可能となった。 ・ 展示では、従来の伝統工芸の展示と一線を画した、博物館でないといけない展示ということで、多くの観客の興味を喚起するとともに、それぞれの作品の魅力を最大限に活かすことを試みた。 ・ 天候不順等により、入場者数の目標は達成されなかったが、観覧者の満足度は高いものがあつた。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	入場者数	72,637人	80,000人	B					
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				



工芸のいま展示風景

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 2131

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1)－③ 展覧会広報活動の取組み								
担当者	担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	広報室長	立道恵子				
実績・成果	・東京国立博物館ニュース、フロアガイド、総合パンフレット、展示・催し物のご案内、庭園ガイドマップを改訂発行した。 ・ウェブサイトは随時更新し、最新情報の提供に努めた。 ・博物館情報をメールマガジンにより配信した。またメールマガジンの登録・解約の受付、配信を安全かつ利用者の利便性を高めるシステムを正式に導入した。 ・特集陳列の周知印刷物を制作、配布した。 ・マスコミ媒体と連携した広報活動の展開に努めた。								
補足事項	・特集陳列「六波羅蜜寺の仏像」7月10日～9月21日)、「中国書画精華」(9月9日～11月3日)、「黒田清輝のフランス留学」(2009年3月3日～4月12日)開催にあたり、周知印刷物の制作、DM、交通広告を行なった。また特集陳列「蘭亭序」(3月4日～5月6日)「法帖と帖学派」(2009年3月4月26日)については台東区立書道博物館、特集陳列「茶人好みのデザイン～彦根更紗と景德鎮」については大倉集古館ならびに五島美術館と連携して周知印刷物を制作するなど、特集陳列の広報に努めた。 ・上野駅公園口に東京国立博物館広報枠を新たに設置した。 ・「月刊うえの」「月刊書道界」「展覧会ガイド」「にっぽにあ」等に加え「毎日小学生新聞」で収蔵品を紹介する連載ページ(1年間、全46回)を確保した。また264媒体に月1回プレスリリース送付、臨時情報を2回送付するなど、マスコミ媒体との連携による広報を行なった。マスコミの取材・撮影・写真貸出し等約480件、掲載(新聞・雑誌・インターネット等)約540件								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	東京国立博物館ニュースの発行	6回	6回	A		6	6	6	6
	ウェブサイトの更新	3,616回	300回	A		－	3,000	4,547	3,616
	電子メールマガジン配信	53回	－	－		60	58	57	53
	登録者数	14,247名	－	－		13,286	15,138	16,758	14,247
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (1) 展示の充実 ③個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調に成果を上げている。						



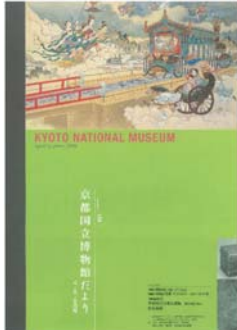
上野駅公園口に新たに設置された広告枠

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号 2132

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1)展示の充実 ③展覧会広報								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 赤尾栄慶					
実績・成果	メールマガジンの発行（15回） 「博物館だより」の発行・配布（4回） 「News Letter」の発行・配布（4回） 「年間スケジュール」リーフレットの作成・配布 「展示案内」リーフレット（6ヶ国語）の作成・配布 特集陳列リーフレットの作成・配布 ウェブサイトによる情報提供（日本語・英語） モバイルサイトによる情報提供 マスコミ媒体と連携した広報活動の展開								
補足事項	・「博物館だより」は、年4回、それぞれ1万部から1万5,000部発行し、観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか、郵送希望者にも発送している。  「京都国立博物館だより 158号」								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	博物館だよりの発行	4回	4回	A		4回	4回	4回	4回
	News Letter の発行	4回	4回	A		4回	4回	4回	4回
	展示案内リーフレットの作成	6ヶ国語	6ヶ国語	A		6ヶ国語	6ヶ国語	6ヶ国語	6ヶ国語
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入場者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1)展示の充実 ③展覧会広報								
担当者	担当部課	総務課渉外室			事業責任者	渉外室長 添田美由紀			
実績・成果	・ホームページのリニューアル ・奈良国立博物館だより 年4回発行 ・奈良国立博物館リーフレット（七ヶ国語）発行 日本語 10 万部、英語 1 万部、韓国語 8 千部、中国語 5 千部、仏・独・西語各 2 千部 ・奈良国立博物館展示案内を年2回発行 ・電子メールマガジンによる博物館情報の発信 ・配信回数 13 回、登録者 3,978 人 ・特別展「国宝 法隆寺金堂」では、法隆寺と相互で入場券の割引を実施 ・平常展の入場割引券を発行								
補足事項									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20
	博物館だより発行 メールマガジン登 録者数	4 回 3,978 件	4 回 －	A －		4 回 1,776	4 回 2,826	4 回 3,413	4 回 3,978
年度実績評 価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画記 載事項	個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 2134-1

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ③ 展覧会広報 1/2								
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	文化交流展室長 河野一隆 特別展室長 伊藤信二					
実績・成果	①外国語のガイドブック(中国語)・マップ(英語・中国語・韓国語)を刊行した。 ②テーマを定めたトピック展示の特性を踏まえて、web コンテンツやちらし・ポスター・リーフレット・図録などを、昨年の倍以上に刊行し、新聞紙上での広報等を通じて新鮮な展示を来館者に提供できた。 ③ 特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作した。								
補足事項	①例年実施しているアンケートに加えて、来館者動向の調査を、九州大学金大雄研究室との共同研究として、および科学研究費による研究としても実施した。これらによって実際の来館者の動向がよく捉えられ、今後の文化交流展室の展示活動に大きな指針が得られた。 ②トピック展示では、文化庁・青森県や、九州内自治体・九州大学総合博物館と共同主催して行う企画もあり、当館の自主的な企画の枠を越えた新鮮な展示を提供すると同時に、広報することができた。 ③ 特別展では、ポスター・チラシを制作。うち2回の展覧会で先行・本チラシおよび先行・本ポスターと複数制作するとともに、広報資料を制作し、チラシ・ポスターとともに関東・関西圏の雑誌、メディア約 300 媒体と九州圏内の情報誌約 150 媒体に送付した。								
	 トピック展示「奴国の南」展覧会風景   先行ポスター 本ポスター								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
年度実績評価総括	S ④ B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ③ 展覧会広報 2/2								
担当者	担当部課	広報課	事業責任者	広報課長 石橋和夫					
実績・成果	① マスコミ媒体と連携した広報活動を展開した。 ② 「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を発行した。(年4回) ③ ウェブサイトによる情報提供を行った。(日本語・英語)(常時更新) ④ 地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を行った。 ⑤ 九州観光推進機構を通じた海外への広報・営業活動を行った。								
補足事項	① イベントやトピック展示の開催など79件のリリースを記者クラブに資料提供した。また、特別展の開催に関する記者発表やプレスプレビューを実施した。 ② 「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を4月1日、7月1日、10月1日、1月1日の4回発行した。 ③ ウェブサイトによる情報提供の充実を図るため、ホームページのリニューアルを行った。 ④ 地元の市、商工会、観光協会等と例月の協議会を開催し、情報を交換した。また、地元の太宰府天満宮参道の商店を対象とした特別展内覧会を開催した。これにより、地元観光協会による特別展ごとのバナー広告などを自主的に制作してもらうなど広報の幅が広がった。 ⑤ 九州観光推進機構を通じ、東アジアの旅行業者等に随時情報を提供した。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	「九博季刊情報誌アジアージュ」の発行	4回	4回	A		0	3	4	4
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調に成果を上げている。					



季刊情報誌アジアージュ

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ④黒田記念館所蔵作品の公開機会の拡大								
担当者	担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長 谷 豊信					
実績・成果	・平成 21 年 3 月 3 日から 4 月 12 日まで、東京国立博物館本館の展示室において、特集陳列「黒田清輝のフランス留学」を開催した。重要文化財「智・感・情」など、通常は黒田記念館で保管・展示している黒田作品と、通常は平成館や本館で保管・展示している黒田作品に加え、東京藝術大学所蔵の黒田清輝関連作品も合わせて展示し、黒田の留学時代の足跡をたどる。規模・質とも、他館であれば十分に特別展となる展示となり、好評を博した。								
補足事項	 特集陳列「黒田清輝の留学時代」 上:重文「智・感・情」 下:「読書」								
定 量 的 評 価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	特集陳列展示件数	34 件	—	—				44	34
	内、黒田記念館収蔵品数	18 件	—	—				44	18
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	黒田記念館については、東京国立博物館に所属を移し、所蔵作品を東京国立博物館でも展示するなど公開機会を拡大する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調に成果を上げている。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供 (1/4)								
担当者	担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長 小林牧					
実績・成果	1) 先導的事業のモデル化及び実践 ○親と子のギャラリー（平常展の一環として実施する教育普及展示） ・「博物館の水族館」6/25～8/31(31日間)平成館企画展示室 ○体験型プログラムの実施 ・オリジナルスタンプを使った「日本のもようでデザインしよう」等体験プログラムを実施（ほぼ毎日開催）。作品鑑賞を深め、伝統文化の理解の手がかりとなった。 ・展示に関連したワークショップを、大人、高校生、家族など対象別に実施（年間8プログラム 16回実施）。 ・「みどりのライオン」プロジェクト みんなで楽しむ教育普及スペース「みどりのライオン」を表慶館から本館に移設した。								
補足事項	・先導的事業のモデル化及び実践 昨年の実績に基づいて、展示と関連した体験型プログラムを改良、発展させた。各プログラムは、新規来館者の来館のきっかけとなると同時に、さまざまな年齢層の初心者からリピーターまでそれぞれのレベルやニーズに応じて作品鑑賞を深め、伝統文化への興味関心をより高めることができた。博物館における先導的教育普及事業のモデル化をすすめ、実践することができた。 ・「みどりのライオン」プロジェクト 教育普及スペース「みどりのライオン」を特別展の開催にともない本館に移設したところ、一般来館者の利用が増大し、歴史と伝統文化の理解の促進に寄与した。 いっぽうで、学校団体の利用に際しての、集合場所、荷物の預り、昼食場所の提供など、団体向けサービスが低下した面もあった。								
								親子のギャラリー展示風景	
								ハンズオン体験コーナー 「日本のもようでデザインしよう」	
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	体験型プログラム参加者数	75,675人	—	—		107,113	98,939	113,492	75,675
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。 順調に成果を上げている。									



親と子のギャラリー展示風景

ハンズオン体験コーナー
「日本のもようでデザインしよう」

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供 (2/4)									
担当者	担当部課	学芸企画部博物館教育課			事業責任者	教育普及室長 小林牧				
実績・成果	2)学校との連携事業の推進 ・スクールプログラム（小・中・高等学校団体対象） ガイダンス、鑑賞支援プログラム、体験型プログラムなどを提供。伝統文化の理解促進に寄与した。 就業体験の受け入れを行った。 ・高等学校の単位制授業に連続する教育プログラムを提供（共催：国立西洋美術館、東京国立近代美術館）。連携する高等学校以外からも広く参加者を受け入れた。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会の会員研修会への協力・講演等3件（7/30～8/1 共催：東京芸術大学） ・教員特別鑑賞会・ガイダンスの実施 計2回 このほか、地域ごとの教員グループ研修を実施 計4回 ・大学院生を対象とした、インターンシップを実施。									
補足事項	・スクールプログラムでは、児童・生徒の鑑賞体験を深め、伝統文化の理解を促進することができた。同時に、公共施設におけるマナーを習得させ、博物館および文化財保護に関する意識を高めることもできた。美術作品を鑑賞し、伝統文化に触れる機会を得ることは、児童・生徒にとって将来の大きな糧になると同時に、博物館にとっては、来館者層の拡大と将来のリピーターの養成につながるものである。 ・教員に対する研修を行うことによって、学校教育の現場における鑑賞教育のよりよい展開と伝統文化に対する理解を促進することができた。 ・インターンシップを通して、学生の研究意欲、職業意識を高め、将来の有望な博物館研究員の養成に寄与した。  スクールプログラム受講風景									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20	
	スクールプログラム	133校 5,857人	—	—		76校 1,704人	87校 1,580人	187校 4,646人	左記	
	教員内見会	868人	—	—		516人	965人	408人		
	インターンシップ	18大学 25人	—	—		—	18大学 18人	12大学 20人		
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)									
中期計画記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調に成果を上げている。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供 (3/4)								
担当者	担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長 鷲塚麻季					
実績・成果	2) 学校との連携の推進 大学との連携事業 - 東京芸術大学との連携事業大学院生と当館研究員が連携して準備を行ない、陳列品を前に平易な言葉で20分程度解説することにより、来館者の鑑賞の補助ができた。 - 当館蔵の仏画を部分模写して制作工程模型を作成し、特殊な技法を紹介すると共に、ギャラリートークを行なって制作過程を説明することで、来館者の鑑賞を手助けした。 ハンズオン体験コーナーに於ける陳列期間：平成21年1月14日～3月29日 - 上記2件（ギャラリートークのみを行うものと、制作工程模型制作とそれについてのギャラリートークを行うもの）の合計 大学院生7名、ギャラリートーク回数62回、参加者数1,878名 - キャンパスメンバーズ加入校を対象とした事業を実施した。 キャンパスメンバーズ博物館セミナー キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。 キャンパスメンバーズ教育連携事業 キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いを含む博物館実務全般について演習・実習形式による体験的講座を実施。								
補足事項	- ギャラリートーク実施者にとっては、参加者にわかりやすい内容や話し方を工夫することが貴重な経験となり、参加者は作品鑑賞の理解を深めることができた。 - 制作工程模型の作成は、古典的技法を追体験することにより、制作者自身が新知見を得ることができ、その説明を受けた観覧者が作品の制作に関して疑問を解く手がかりを得ることができた。 - 総じて東京芸術大学との連携事業において、模型の制作・ギャラリートークを行うことで、学生の学習意欲を喚起し（当館の所蔵作品における新知見を見出す等）、発表する機会を提供した。その結果として博物館の事業および文化財について、来館者に対し多角的な視点での鑑賞・理解を一層深めることにつながった。 - キャンパスメンバーズ対象事業については、博物館セミナー及び教育連携事業について事前に広報活動を行ったため、昨年に比べ、参加校が大幅に増加した。講義も、展示のみならず、保存・展示デザイン・教育など、東博ならではの内容であった。学生もたいへん意欲があり、活発な意見交換が行われ、充実したものになった。								
						ギャラリートークの様子			
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	東京藝術大学登録者数 キャンパスメンバーズ加入校数	7 人 29 校	— —	— —		17 人 —	9 人 16 校	9 人 22 校	7 人 29 校
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。		順調に成果を上げている。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供 (4/4)								
担当者	担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育講座室長 白井克也					
実績・成果	3)-6) 講演会・列品解説・講座等の実施 月例講演会：実施 12 回、テーマ講演会：実施 2 回、記念講演会：実施 15 回 列品解説（ギャラリートーク等）：実施 101 回 連続講座：実施 1 回（3 日）、イブニングレクチャー：実施 1 回、 教育的イベント：ワヤン上演 実施 1 回 その他 夜桜コンサート、トークショー、薬師寺展ガイドランス、万燈会、禅トーク、坐禅会、呈茶、保存修復見学ツアー、恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業上野の山でゾウめぐり、台東区連携事業横山大観ツアー 本年度は、前年度に比べ、特別展開連の教育的イベントの実施回数が減少したため、これにより参加者数も減少したが、1 回あたりの参加者数の平均値はこれまでの実績を上回った。								
補足事項	- 多様な講座・講演会等により、文化財に対する理解と親しみを促進した。 - 前年の「今後聞きたい講演会」アンケート集計結果を踏まえ、上位項目の「刀剣・鎧」をテーマとした「刀剣鑑賞入門」を月例講演会で行い、聴講者の希望に応じた。 - 夜間開館時を利用して金曜日夕方に有名人によるトークショー、万燈会、列品解説などを開催し、新たな来館者層の開拓に努めた。 - 受講者募集においてインターネットによる応募や、1 件 2 名のペア受講券などを定着させ、特別展開連イベント等にも適用を拡大した。特に後者は親子、夫婦、友人、介護などの関係を解体せずに参加できる機会を増やし、より気楽で親しみやすい企画とすることに成功した。 - 展示作品の使用時の姿を生き生きと伝えるための芸能・音楽でのパフォーマンスを新たに事業化し、今年度は特集陳列「ワヤン—インドネシアの影絵人形」に関連して日本ワヤン協会によるワヤン公演「クレスノ使者に立つ」を開催した。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	講演会等の実施回数	132 回	—	—		83	98	141	132
	参加者数	12,332 人	10,915 人	A		10,712	11,035	11,361	12,332
	うち								
	講演会 実施回数	29 回							
	参加者数	7,134 人							
	連続講座実施回数	1 回							
	参加者数	356 人							
	公開講座実施回数	1 回							
参加者数	68 人								
列品解説実施回数	101 回								
参加者数	4,774 人								
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。		順調に成果を上げている。							



連続講座風景

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供									
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長	赤尾栄慶					
実績・成果	・土曜講座を土曜日の午後に開催（36回） ・夏期講座「文化の波及と変容Ⅱ」を実施(7/30～8/1) ・小・中学生向け作品解説シート（博物館ディクショナリー）を継続して発行（8回） ・京都大学大学院人間・環境学研究科、歴史文化社会論講座を担当 ・キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携（29校（平成21年3月31日現在）） ・京都橘大学との連携を行い、解説ボランティアによる展示解説を実施 ・「留学生の日」（11/15）を実施 ・「少年少女博物館くらぶ」（7/26）を実施									
補足事項	・外国人留学生の「留学生の日」入館者は、同伴者を含め163名。平常展示の観覧により文化財への理解を深める機会を提供するとともに、お茶会を催し、留学生を通じて、日本の伝統文化の国外への発信を行った。									
						「留学生の日」				
定量的評価	項目		実績	目標値	評価		17	18	19	20
	講演会等	参加者数	3,413人	5,181人	C	経年変化				
		実施回数	39回	—	—					
	うち土曜講座	参加者数	3,254人	—	—		4,975	4,827	4,329	3,254
		実施回数	36回	—	—		44	47	45	36
	夏季講座	参加者数	159人	—	—					
		実施回数	3回	—	—					
	キャンパスメンバーズ	加入校	29校	—	—		15	21	29	
年度実績評価総括		S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	歴史・伝統文化の理解促進を図るとともに、その中心的拠点としてふさわしい教育普及事業に重点化する。 ①学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(2)歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供											
担当者	担当部課	学芸部教育室	事業責任者	教育室長 吉澤 悟								
実績・成果	・特別展に伴う公開講座の実施 19 回 ・当館関係者によるサンデートークの実施 12 回（毎月 1 回） ・夏季講座の実施 8 月 19 日～8 月 21 日（3 日間）、参加者 362 名 ・正倉院シンポジウムの実施 11 月 3 日 ・世界遺産学習実践研修会（於：奈良教育大学）の共同開催 2009 年 1 月 11 日 ・職場体験（中学生）の受入 4 名 ・解説ボランティアによる作品解説 - 展示会場での解説 延べ 320 日 - 学校団体案内 57 件 - 一般グループ案内 60 件 - 正倉院展の講堂解説 102 回（正倉院展会期中毎日 4～6 回） - 世界遺産学習の受入 36 回（奈良市内の全小学校 5 年生を対象に実施）											
補足事項	・世界遺産学習は、奈良市教育委員会と協業し、市内の小学校の 5 年生を対象に行っている事業。世界遺産や文化財への理解や伝承の大切さ、愛郷心などを育むことを目的に、解説ボランティアによるレクチャーと実際の仏像観察などを行っている。各回に 40～100 名を超える児童が来館。 ・夏季講座は奈良女子大学 COE 研究との共同主催事業。									公開講座風景		
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20			
	講演会等 参加者数	3, 655 人	—	—		4, 073	2, 743	2, 949	3, 655			
	実施回数	34 回	—	—		38	27	30	34			
	うち特別展等講座参加者数	2, 706 人	—	—		2, 947	1, 586	1, 943	2, 706			
	実施数	19 回	—	—		19	12	15	19			
	満足度	90%	—	—		82	86.3	87	90			
	うち夏季講座 参加者数	362 人	—	—		434	486	358	362			
	実施回数	3 日	—	—		3	3	3	3			
	満足度	90%	—	—		82.5	93	84	90			
	うちサンデートーク 参加者数	587 人	—	—		692	671	648	587			
	実施数	12 回	—	—		16	12	12	12			
	小中学校へのメールマガジンの配信	220 校	220 校	A	220	220	220	220				
	放送大学面接授業	178 人	150 人		170	160	150	178				
	キャンパスメンバーズ加入校	25 校	—			12	20	25				
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)											
中期計画記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。											
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調に成果を上げている。									

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ① 学習機会の提供(1/3)								
担当者	担当部課	交流課	事業責任者	主任研究員	永井真佐美				
実績・成果	① 体験型展示室「あじっば」の一面「あじ庵」を4月と10月に展示替えした。4月は「中国の吉祥文様」がテーマで、10月は新規に資料を購入した「ベトナム」がテーマであった。また、小・中学生を対象に、体験型展示室「あじっば」の「あじぎやら」で、博物館の学芸員の仕事の一部を体験できるワークショップ「なりきり学芸員体験」を実施した。 ② 夏休み子ども向けイベントとして、小・中学生を対象に7月19日～8月1日、「行こうよ！あじっば夏祭り」を実施した。 ③ 児童生徒を対象とした教育普及事業 学校貸出キット「きゅうぱっく」の運用、中学生の職場体験、高校生のインターンシップ、高校生のジュニア学芸員活動、総合的な学習の受け入れなどを実施した。 ④ 大学との連携など 博物館実習、筑紫女学園大学との連携によるガムランワークショップの実施。 ⑤ 教員対象プログラム 7月と9月に特別展の教員対象内覧会を実施した。また、教育センターキャリアアップ講座、「きゅうぱっく」を活用した研修会、学芸員による高等学校歴史研究会への研修を実施した。								
補足事項	① 「中国の吉祥文様」では、体験コーナーの他、映像を流し、今の北京を実感してもらうように心掛けた。また、ベトナムでも、映像を流すと同時に体験コーナーも充実させた。「なりきり学芸員体験」は教育普及部ボランティアの司会進行の下、定常開催が可能になり、ほぼ毎週末、ホームページに日時を告知して実施した。 ② 教育普及部のボランティアの協力の下、12日間の会期のなかで、絵本の読み聞かせ、紋切り型ワークショップ、京劇のお面のぬりえ、ユンノリ・ダコンの4種類のプログラムを実施した。 ③ 学校貸出キット「きゅうぱっく」は小・中学校・高等学校の他、各種イベントでも活用された。また、第2回キッズデザイン賞でコミュニケーションデザイン部門賞を受賞した。中学生の職場体験は館内外の協力の下、プログラムが確立し、より充実したものとなった。 ⑤ 教育センターと協働したキャリアアップ講座や須玖小学校の教員研修では、具体的な学習指導案が提出され、博学連携が一步前進した。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	あじ庵の展示替え なりきり学芸員体験	2回 63回	— —			— —		2 45	2 63
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調に成果を上げている。						



「きゅうぱっく」を活用した授業



中学生の職場体験

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ① 学習機会の提供(2/3)									
担当者	担当部課	展示課 企画課	事業責任者	主任研究員 森井啓次 文化交流展室長 河野一隆 特別展室長 伊藤信二						
実績・成果	①毎週火曜日（火曜休館の週はお休み）に研究員によるミュージアムトークを実施した。（月2～4回で15分～30分程度）。1回の平均参加人数は30名程度である。 開催にあたっては昨年と同様に講師の調整は担当研究員が行い、実際の運営にあたってはボランティアコーディネーター指導により、ボランティアの手で行われている。当館では展示替えが頻繁に行われていることから、展示解説ボランティアにとっても資料学習の良い機会となっている。 ②学校教育と連携事業を実施した。 ③特別展記念講演会・シンポジウム・トークショーを開催した。									
補足事項	①全研究員が担当し、キャプションだけでは伝えられない情報を来館者に伝えることができている。更なるミュージアムトークの充実を図り、聴講者の増加とリピーター確保につなげたい。 ②3回の特別展で、中高教員対象の内覧会を実施 ③各特別展では記念講演会・シンポジウム・トークショーを実施した。内容は外部講師や著名ゲストを迎えての、より親しみやすい内容のものと、館外・館内研究者による学術的なものの二面を打ち出し、各層の期待に応えるものとなった。またいずれの特別展でも、地元自治体への出張講演を複数回実施した。  ミュージアムトーク風景									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20	
	ミュージアムトーク									
	実施回数	37回	—			66	47	42	37	
	参加者数	1,096人	—			2,411	1,806	1,320	1,096	
	講演会等									
	実施回数	19回				23	24	61	19	
	参加者数	4,411人	5,255	B		7,144	4,282	4,168	4,411	
	内特別展									
	記念講演会									
	実施回数	11回				2	12	7	11	
	参加者数	2,670人				550	2,153	1,892	2,670	
	内シンポジウム									
	実施回数	6回				6	3	1	6	
	参加者数	1,555人				1,700	640	316	1,555	
	内トークショー									
	実施回数	-回				—	—	—	—	
参加者数	-人			—	—	—	—			
内ミュージアム講座										
実施回数	2回						11	2		
参加者数	186人						640	186		
年度実績 評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)									
中期計画 記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調に成果を上げている。						



ミュージアムトーク風景

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ① 学習機会の提供(3/3)								
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 樋口理央					
実績・成果	キャンパスメンバーズ制度に、教育機関（大学・専門学校・高校）が、新規および継続で入会した。また、会員校からの依頼で特別展の出張講義を実施した。 キャンパスメンバーズ加入数 22校 大学 11校 短期大学 3校 専門学校 2校 高等学校 6校 特別展の出張講義 9件								
補足事項	キャンパスメンバーズには、本年度から九州地区で最大級の学生数を有する九州大学が加入し、文化交流展示室に6,287人の入場があった。出張講義については、研究員の人数や業務に限りがあるため、増やすには難しいという課題もある。 出張講義の様子								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	キャンパスメンバーズ加入校	22校	—	—		—	—	21	22
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2)歴史・伝統文化の理解促進 ②-1 ボランティア活動の支援								
担当者	担当部課	博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長 鷲塚麻季					
実績・成果	- 活動充実のため、ハンズオン体験コーナー等で作業を補助する活動を設けた。 ハンズオン体験コーナー利用者数：38,893 人 - 各種イベント補助の機会を設けた。補助回数 21 回 - ガイドツアーの充実を図った。 実施回数 404 回、参加人数 10,693 人 - 児童・生徒の就業体験を受け入れた。 学校数 33 校、生徒数 117 人 - 職員による研修を行い活動に資した。 実施回数 174 回、参加人数のべ 2,820 人								
補足事項	- 各種教育普及事業の補助、ボランティア自身による自主的な企画立案による活動、各種解説ツアーの実施により、来館者の生涯学習機会の増大に寄与し、来館者へのサービスの向上をはかることができた。 - 各種ボランティア活動を通じてボランティアを育成し、相互協力により教育普及活動の充実が図られてきている。 子どもたちのアートスタジオ(根付づくり)の様子								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	ボランティア数	171 人	—	—		152 人	151 人	153 人	164 人
	うち生涯学習ボランティア登録者数	164 人							
	うち東京芸術大学学生ボランティア数	7 人							
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。		順調に成果を上げている。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②-1 ボランティア活動の支援・資質向上								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	連携協力室長 山下善也					
実績・成果	- 大学（京都橘大学）との学術協定に基づき、学生が解説ボランティアとして活動した。8月5日から8月29日までの毎火・水・金曜日に、1日2回、考古・陶磁・彫刻の展示作品について、当館職員による事前講習ののち、来館者に解説を行った。 - 調査・研究支援ボランティアの募集と各種事業活動の充実を進めた。当館職員が行う収蔵品調査、社寺調査等の調査・研究業務の補助として、調査作品の計測、調書の作成、撮影等を行った。また、展示替えの際、作品の移動、収納等の作業の補助を行った。								
補足事項	- 学生が解説ボランティアとして、8月5日から8月29日までの毎火・水・金曜日に1日2回（13時30分、15時）、平常展示館1階にて、考古・陶磁・彫刻の展示作品について、当館職員による事前講習ののち、来館者に解説を行った。 - 調査・研究支援ボランティアの募集を行い、社寺調査をはじめとした各種調査研究活動に参加し、活動の充実を図った。 解説ボランティア								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	ボランティア数	30人	—	—		23人	23人	23人	30人
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	歴史・伝統文化の理解促進を図るとともに、その中心的拠点としてふさわしい教育普及事業に重点化する ②-1 教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(2)歴史・伝統文化の理解促進 ②ー1 ボランティア活動の支援・資質向上								
担当者	担当部課	学芸部教育室	事業責任者	教育室長 吉澤 悟					
実績・成果	- 週末の来館者対応を強化するため、新規に6名の増員を行った。 これに伴い、新旧のボランティア希望者を対象に、当館職員による研修を実施した。 - 特別展、特別陳列の開催ごとに1～2回、当館職員による展示内容の研修を実施し、併せて図録の配布を行い自己学習を奨励した。 - 正倉院展会期中に行うボランティア講堂解説は、教育室作成の資料をもとに、立会研修を実施し、さらに実地の自主トレーニングを推奨している。 - 展示内容に関する疑問について質問用紙を用意し、学芸部職員がこれに回答対応している。 - ボランティア室の環境整備を行い、蔵書を増加した。								
補足事項	- 解説ボランティアには自己学習と班内研鑽を推奨し、来館者に向かっては人柄を生かした柔軟な対応を依頼している。 - 解説ボランティアの活動は火曜から日曜までの開館日であるが、年に5～6回の月曜日開館および年末年始の開館においても活動可能な人に対応してもらうよう依頼している。					 解説ボランティアによる案内			
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	ボランティア数	102人	—	—		99	85	96	102
			—	—					
			—	—					
			—	—					
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調に成果を上げている。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																										
事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②-1 ボランティア活動の支援・資質向上																																										
担当者	担当部課 交流課 事業責任者 主任研究員 上野 知彦																																										
実績・成果	① 展示解説ボランティアが主に予約団体に対して4階文化交流展示室の展示解説を実施。 ② 教育普及ボランティアが“あじっば”で、来館者と共に活動することを通して、アジア各国の文化や生活を紹介。 ③ 館内案内ボランティアが日本語・英語・韓国語・英語で来館者に対応。また、バックヤードツアーにも対応。 ④ 環境ボランティアが博物館科学課の指導のもとIPM活動のサポート。 ⑤ イベント・学生ボランティアによるお正月・GWなどに合わせたイベントの企画・実施。 ⑥ サポートボランティアに広報紙の作成や他館ボランティアとの交流の企画・実施。 ⑦ 資料整理ボランティアによる“秋吉コレクション（郷土人形）”の調書作成。 ⑧ 他館などのイベントへの参加・出展を3回（館）実施。 ⑨ 活動報告書の作成 〔対応来館者数〕※事前予約分のみ（当日受付対応は除く） 展示解説：6,213人 館内案内：8,876人 バックヤード：3,118人 〔研修会〕 全体研修：10回 部会別研修：95回 グループ研修：3回																																										
補足事項	① 予約団体だけでなく、常時、質問を受けたり、個人・グループに解説を行っている。 ② ものづくり体験なども常時行っている。 ③ 火・金曜日には予約団体、日曜日は当日受付でバックヤードツアーを行い、博物館の好評な取り組みと1つとなっている。 ④ 博物館科学課の指導のもと、害虫除去、温湿度測定、収蔵庫メンテナンスなど快適な博物館環境の維持に大きな貢献をしている。 ⑥ ボランティアの横のつながりの構築、各部会の活動のサポートを行っている。 ⑦ 活動の成果を“あじぎやら”で発表している。 ⑧ 兵庫県立「人と自然の博物館」主催のボランティア集会など、他館のイベントに九博ボランティアとして参加。																																										
	 バックヤードツアーの様子  あじっばでのボランティアの活動の様子																																										
定量的評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>実績</th><th>目標値</th><th>評価</th><th>経年変化</th><th>17</th><th>18</th><th>19</th><th>20</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボランティア数</td><td>388人</td><td>—</td><td>—</td><td rowspan="4"></td><td>293</td><td>293</td><td>293</td><td>388</td></tr> <tr> <td>全体研修会</td><td>10回</td><td>—</td><td>—</td><td>6</td><td>7</td><td>17</td><td>10</td></tr> <tr> <td>部会別研修</td><td>95回</td><td>—</td><td>—</td><td>120</td><td>120</td><td>105</td><td>95</td></tr> <tr> <td>グループ研修</td><td>3回</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>54</td><td>3</td></tr> </tbody> </table>	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20	ボランティア数	388人	—	—		293	293	293	388	全体研修会	10回	—	—	6	7	17	10	部会別研修	95回	—	—	120	120	105	95	グループ研修	3回	—	—	—	—	54	3
項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20																																			
ボランティア数	388人	—	—		293	293	293	388																																			
全体研修会	10回	—	—		6	7	17	10																																			
部会別研修	95回	—	—		120	120	105	95																																			
グループ研修	3回	—	—		—	—	54	3																																			
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)																																										
中期計画記載事項	教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。																																										
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。																																										

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②-2 博物館支援者の増加								
担当者	担当部課	総務課			事業責任者	総務課長 吉田勇人			
実績・成果	友の会、パスポート及び賛助会等の会員の確保に努めるとともに、地域や企業との連携を推進した。								
	1) 友の会・パスポート・平常展割引パス 会員数								
	種 別		20 年度		(参考) 19 年度				
	友の会 (1 万円)		1,913 人		1,379 人				
	パスポート	一般 4,000 円	19,547 人		18,742 人				
		学生 2,500 円	858 人		1,193 人				
	平常展割引パス (2,000 円)		30 人		39 人				
	・19 年度に開始したオンラインによる「友の会」「パスポート」の申し込み受付数は、順調に増加している。(利用者 319 名)								
	2) 賛助会 会員数								
			20年度		(参考)19年度				
特別会員		13団体		16団体					
維持会員		26団体・個人157人		24団体・個人124人					
・会員対象の特別鑑賞会等の実施 特別展内覧会 4 回 事業報告会 1 回									
3) 地域、機関との連携									
①上野のれん会、上野法人会、上野の山文化ゾーン協議会等、地域の会合等に参加するとともに、台東区及び台東区所管財団法人、東京都、財団法人東芝国際交流財団、株式会社東京美術、三菱商事株式会社等と、展覧会の同時期開催、イベントへの協力、「留学生の日」協賛、障害者向け内覧会等、さまざまな事業を行った。									
②日本大学芸術学部との共催で、所沢市教育委員会後援、埼玉県民芸術文化祭協賛事業として、埼玉県所沢市に位置する柳瀬荘を会場に、「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催し、ワークショップ、美術学科教職員展、舞劇などの5つのプログラムを行った。(参加者合計約886名)									
補足事項	1)・「友の会」「パスポート」のオンライン申込みサービスは定着しつつあり、利用者は順調に増加している。 2)・団体維持会員・特別会員については不況の影響のため、前年度以上に厳しい状況となった。企業等に対する積極的なアプローチを考えていきたい。 ・個人の維持会員数は前年度同様、順調に伸びている。 3)・地域との連携事業を進めるためには、相互の資源を活かせる企画を、展示計画と連動させつつ早期に立てることが重要である。 ・新規に、所沢の柳瀬荘を活用した企画を地元の日本大芸術学部と共催し、地域の住民を取り込んだ活動を実施し、一定の成果があったので、今後も継続していく。 ・企業との連携を今後さらに推進していくためには、企業側にも魅力となるような事業を提案するなどの工夫を図っていく必要があると思われる。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	友の会会員数	1,913 人	—	—		1,377	1,346	1,341	1,913
	パスポート会員数	19,547 人	—	—		17,889	18,705	16,035	19,547
	賛助会員特別会員数	13 団体	—	—		14	16	16	13
	維持会員 (団体) 数	26 団体	—	—		22	22	24	26
	維持会員 (個人) 数	157 人	—	—		77	112	123	157
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	歴史・伝統文化の理解促進を図るとともに、その中心的拠点としてふさわしい教育普及事業に重点化する。 企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②-2 博物館支援者の増加								
担当者	担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長 大西真一 企画室長 赤尾栄慶					
実績・成果	- 支援団体が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力した。 - 企業との連携により、施設を活用したイベントの実施及び広報活動の充実を図った。 「友の会」事業を継続して実施した。 会員数 2,932 人				 バロックコンサート				
補足事項	- 支援団体（社団法人清風会）が行う鑑賞会（5回）・見学会（4回）・会報（4回）の解説・執筆に協力した。 - 企業との連携によるコンサートを実施し、特別展覧会のプレイベントコンサートや平常展示館建て替え工事に伴うファイナルコンサート、初めての試みとして庭園の青空のもとで、自転車エコライブ、さらに米朝事務所の制作協力による「京都・らくご博物館」（4回）を実施した。合わせて、特別展覧会などの広報を行った。 「友の会」会員数においては、平常展示館建て替え工事のため、12月7日（日）で同館を閉館したことを受け、加入者数は前年度に比べ約290名減少している。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20
	友の会会員数	2,932 人	—	—		2,386 人	3,784 人	3,224 人	2,932 人
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	歴史・伝統文化の理解促進を図るとともに、その中心的拠点としてふさわしい教育普及事業に重点化する ②-2 企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					ほぼ順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(2)歴史・伝統文化の理解促進 ②ー2博物館支援者の増加								
担当者	担当部課	総務課渉外室			事業責任者	渉外室長 添田美由紀			
実績・成果	・友の会 会員数 2,815 人（一般 2,623 人、学生 162 人、家族 30 人） ・賛助会 特別支援会員：6 団体、特別会員：1 団体、一般会員（個人）：25 人、（団体）：17 団体 ・特別展「天馬-シルクロードを翔ける夢の馬-」実施につき、企業から協力金を獲得 ・奈良名観光イベント「ライトアッププロムナード・なら 2008」、「なら燈花会」に協力								
補足事項	 ライトアッププロムナード・なら  賛助会員芳名板								
定 量 的 評 価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20
	友の会会員数	2,815 件	—	—		2,613	2,288	2,439	2,815
	賛助会数（総数）	49 件	—	—		28	35	45	49
		件	—	—					
		件	—	—					
年度実績 評価総括	S ㊤ B C F (S、F の理由)								
中 期 計 画 記載事項	企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②-2 博物館支援者の増加									
担当者	担当部課	総務課 交流課	事業責任者	総務課長 樋口理央 事務主査 元永行英						
実績・成果	①賛助会員制度においては、設置の検討を行ったが、他館の状況等調査を行った結果、諸課題により当館で新たに実施するには難しいと判断した。 ②友の会およびパスポート会員においては、昨年度同様で推移している。 ③本年度で来館者数 500 万人を突破した。 ④支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施した。									
補足事項	①賛助会員制度は、他館での会員に対する優遇措置が税制面で税務署から指摘を受けたこともあり、新たに賛助会員制度を作るのは難しいと判断し、その代替措置として、当館ホームページを利用した寄付金のお願いをしているところである。 ④支援団体や近隣地域と連携したイベント ・「九州国立博物館を愛する会」と連携して「九博こどもフェスタ」を開催。館内ボランティアや周辺自治体の協力も得て、地域のこどもたちを対象にしたイベントを実施できたもの。 ・(財)九州国立博物館振興財団と連携して、「百済の美」写真展を開催。百済と関係の深い太宰府の博物館として有意義な催しを実施できたもの。 ・福岡女子短期大学(太宰府市)と連携して館内のカフェで定期的にコンサートを実施。地域連携の促進及び館内施設の有効利用を図った。 ・エントランスホールにて博多山笠・長崎ランタンフェスティバル・九州各地のひなまつり等の展示を通して、地域の代表的な催事を来館者に広く周知した。 ・内容を勘案したうえで、自治体や文化団体の主催するイベントを受入れ各団体との連携を強化するとともに、来館者サービスを促進した。									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20	
	友の会 会員数	1 5 4	—	—		312	229	167	154	
	パスポート会員数	3, 1 2 0	—	—	1, 552	1, 312	3, 252	3, 120		
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)									
中期計画記載事項	企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。					



九博こどもフェスタ風景

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ① 観覧環境の整備プログラム等の策定 (1/5)								
担当者	担当部課	博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長 鷲塚麻季					
実績・成果	○点字解説等の改訂 視覚障害のある方に構内を紹介するための、点字版パンフレットの作成に取り組み、本年度あらたに10部を増刷した。								
補足事項	・視覚障害のある方が展示を理解するための有効な手段となっている。 ・当館のバリアフリー化の促進にも寄与した。 ・今後、より多くの方々に利用してもらえよう、周知方法等についても検討していきたい。 点字パンフレット								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	配布部数	9 部	—	—	経年変化	—	—	9 部	9 部
	増刷部数	10 部	—	—		—	—	10 部	10 部
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。		順調に成果を上げている。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①観覧環境の整備プログラム等の策定 (2/5)								
担当者	担当部課	博物館教育課・列品管理課・企画課		事業責任者	教育普及室長 小林牧				
実績・成果	○4カ国語パンフレットの制作 ・「日本美術の流れ」展示のテーマ解説および主な展示作品の解説をまとめた日本語パンフレットを作成した。作品の展示替えに応じて、更新を行った。 年間計36回更新・制作 (第128号ー163号) ・外国人に「日本美術の流れ」を理解してもらうために、よりわかりやすい解説を盛り込み、カラー図版を多用した英語、中国語、韓国語カラーパンフレットを配布した。								
補足事項	・展示を理解するための有効な手段として、外国からの多くの来館者に利用された。 ・ナショナルセンターとして、日本の伝統文化の理解促進に寄与した。 ・英語、中国語、韓国語によるカラーパンフレットは、より基礎的な情報で構成したため、わかりやすいと好評を得た。また、内容が作品の展示替えに左右されないので、長期間にわたって配布できるようになった。  カラーパンフレット 英語版、中国語版、韓国語版								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	日本語パンフレット更新・制作回数	36回	—	—		—	—	39回	36回
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。		順調に成果を上げている。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①観覧環境の整備プログラム等の策定 (3/5)								
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	デザイン室長 木下史青					
実績・成果	○展示照明の整備 より快適な観覧環境を構築するため、展示照明の整備を順次進めた。 ・本館 11 室 特集陳列「六波羅蜜寺の仏像」のためのカッタースポットライトによる照明 ・既存展示ケース用に開発された上部光ファイバー用特注先端レンズ器具を追加整備した								
補足事項	・彫刻を主体とした特集陳列のため、作品の見せ方に効果的な、カッタースポット（フレーミングスポットライト）照明器具を新規に購入・使用した。 ・以前から使用しているカッタースポットライトの光源が100V仕様であることから、色温度が低かったが、新規購入器具では、12Vミラー付ハロゲンランプを使用しているため、仏像をよりシャープな光で見せることが可能となった。 ・既存の展示ケースに付属の光ファイバー照明は、十分な光量が得られないため、展示効果に支障があったが、18年度に新規に開発した先端レンズ器具を、順次追加整備している。  本館 11 室 特集陳列「六波羅蜜寺の仏像」 カッタースポットライト約40灯による展示照明を行った。 (うち約 20 灯が新規購入分の器具を使用)								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
年度実績評価総括	S ㉠ B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調に成果を上げている。					



本館 11 室 特集陳列「六波羅蜜寺の仏像」
カッタースポットライト約40灯による展示照明を行った。
(うち約 20 灯が新規購入分の器具を使用)

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①観覧環境の整備プログラム等の策定 (4/5)								
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	特別展室長 救仁郷秀明					
実績・成果	下記の特別展で実施 ・特別展「国宝 薬師寺展」 146,444 件 ・特別展「対決 巨匠たちの日本美術」 63,056 件 ・特別展「スリランカ展」 7,112 件 ・特別展「大琳派展」 52,248 件 ・特別展「福沢諭吉展」 7,157 件 ・特別展「妙心寺展」 29,118 件 貸出数：計 305,135 件								
補足事項									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	音声ガイド貸出件数	305,135 件	—	A				256,441	305,135
年度実績 評価総括	S ㊤ B C F (S、F の理由)								
中期計画 記載事項	国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調に成果を上げている。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ① 快適な観覧環境の提供(5/5)								
担当者	担当部課	経理課	事業責任者	経理課長 金子寛志					
実績・成果	①平成館，東洋館の多目的トイレにオストメイト対応設備（2箇所）を設置した。								
補足事項	○多目的トイレにオストメイト対応設備を設置した。 オストメイトサイン  オストメイト用の設備を備えています オストメイト対応設備 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
年度実績 評価総括	S ① B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。		順調に成果を上げている。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ① 快適な観覧環境の提供								
担当者	担当部課	総務課、学芸部		事業責任者	総務課長 大西真一 学芸部長 小松大秀				
実績・成果	・平常展示館の建替に伴う先行熱源設置工事が完了し、南門売店増築工事が着工された。 ・平常展示館の建替に先行して、旧事務棟渡り廊下の解体作業及び発掘調査に着手した。 ・6カ国語の「展示案内」リーフレットを制作した。平常展示館閉館に伴い「展示案内（日本語版）」と庭園マップを改訂した。 ・展示テーマごとに外国語（英語）パネルを設置した。 ・特集陳列「坂本龍馬」及び特別展覧会において音声ガイドによる情報提供を実施した。「Japan 蒔絵」展においては、英語による音声ガイドも提供した。 ・特別展覧会「京都御所ゆかりの至宝」において入館待ち時間をきめ細かく情報提供し、観覧の便を図った。 ・当館職員並びに売店、レストラン従業員、(財)京都古文化保存協会学生ボランティアを対象として「マナー講習会」を開催し、接遇技能の修得に努めた。 ・東山消防署の協力により、消防訓練を実施した。また、普通救命講習及びAEDの取扱い講習会を開催した。 ・AEDを平常展示館のほかに特別展示館に設置した。平常展示館閉館後は南門改札場所付近に移設し、館外からも利用することを可能とした。								
補足事項	・将来構想検討委員会建設事業小委員会において、博物館の外構整備に関する基本計画が策定され、将来構想検討委員会委員会にて承認された。 ・音声ガイド利用台数 「坂本龍馬」：1,792 台 「絵画の冒険者 暁斎」：8,608 台 「Japan 蒔絵」：7,452 台 「京都御所ゆかりの至宝」：15,717 台 「妙心寺」：1,028 台（3月末現在）  消防訓練大会でのAED取扱展示訓練 ・特別展覧会において、日よけテントの設置、自動販売機の増設、休憩所の設置等、来館されたお客様に十分配慮した。 ・事務職員はすべて普通救命講習を受講しており、衛士は上級救命講習を受講している。AED取扱についても機会があるごとに繰り返し訓練している。 ・京都市消防局及び京都市内事業所等で組織する「安心救急ネット京都」創設にあたり、加入登録を行い、AED設置、救命講習の受講等応急手当の普及啓発に組織的に取り組んでいる。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	音声ガイド貸出件数	34,597 件	—	—		19,787 件	53,232 件	50,344 件	34,597 件
	リーフレット	6カ国語	6カ国語	A		6カ国語	6カ国語	6カ国語	6カ国語
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。 ①施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(3)快適な観覧環境の提供 ①快適な観覧環境の提供								
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	渉外室長 添田美由紀					
実績・成果	- 男子用トイレに小児用小便器と車椅子用手すりを3カ所設置。 「正倉院展」期間中に入場待ち列用テントを拡充、看護師の館内常駐を実施。また混雑緩和のため、定期的な入場制限、11月2日の団体入場禁止、混雑状況のホームページ掲載などを実施。 - オータムレイト券購入者に記念品（第1回の入場券を模したしおり）を配布した。 - 地下回廊に携帯電話接続のため、携帯電話各社によるアンテナを設置。 - 本館から地下回廊へ降りる階段に転倒防止用のテープを設置。 - 国宝 法隆寺金堂展で博物館、法隆寺の相互割引を実施。								
補足事項	「正倉院展」での入場待ちテントを拡充し、全員に提供することができたため、観覧者の満足度向上につながった。また、オータムレイト券に記念品を加えることで訴求性を強め、ピーク時の混雑緩和に寄与することが出来た。 - これまで地下で携帯電話が繋がらなかったため、多客時の待ち合わせなどに支障をきたしていたが、接続できるようになり、待ち合わせが容易になるなど観覧者の満足度向上につながった。  手摺り付き小便器  携帯電話アンテナ								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	音声ガイド貸付件数	60,356 件	—	—		39,467	41,490	37,110	60,356
	リーフレット	7カ国	7カ国	A		7カ国	7カ国	7カ国	7カ国
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調に成果を上げている。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ① 快適な観覧環境の提供(1/2)								
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 樋口理央					
実績・成果	①リーフレットを引き続き7カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語）を作成した。 ②九博概要を新しく3カ国語（日本語、中国語、韓国語）を作成した。 ③4階にある救護室入口に車椅子利用者対応としてスロープを設置し、段差の解消を行った。 ④多目的トイレ（3ヵ所）にオストメイト対応設備を設置した。								
補足事項	○多目的トイレにオストメイト対応設備を設置した。今後は弱視者に対応した誘導ブロックの色の変更を計画しているところである。 ○当館の概要については、より分かり易くビジュアルなものにするべく見直した。また、多言語対応として、日本語版・中国版・韓国語版の3カ国語を作成した。来年度は、英語版を追加して作成予定。  オストメイトサイン  オストメイト対応設備  救護室入口スロープ								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20
	リーフレット作成	7カ国語	7カ国語						
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				



オストメイトサイン



オストメイト対応設備



救護室入口スロープ

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ① 快適な観覧環境の提供(2/2)								
担当者	担当部課	企画課	事業責任者		文化交流展室長 河野一隆 特別展室長 伊藤信二				
実績・成果	① 特別展ごとに展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを作成した。 ② 特別展では、観覧者の理解を助けるための普及プロジェクトを実施した。 ③ 中国語による展示ガイドブックおよび英語・中国語・韓国語の簡単な展示解説付マップを作成、配布して海外からの来館者に対応することとした。 ④ 中国語・韓国語による展示の時代背景を簡単に解説するキャプションを作成し、主要な展示品にそって掲示した。これにより、音声ガイド以外でも展示情報が得られるようにした。								
補足事項	① 「国宝天神さま」展では、音声ガイドの利用促進のため、音声案内者として、女優の市原悦子氏を起用した。 ② 普及プロジェクトの例として、特別展「国宝 天神さま」では、展示室内に「天神さま研究所」を開設し、全国からホームページを利用して天神さま情報を収集・公開した。さらに「天神さま学習帳」を作成し、小学生対象に配布し、普及につとめた。 ④ 来館者動向の調査を九州大学金大雄研究室との共同研究ならびに科学研究費等を活用して実施し、分かり易い展示研究を進めた。 また、中国からの大規模団体客ツアーに対応するため、文化交流展示室の内容を紹介する中国語ガイドブックを作成し、英語・中国語・韓国語による簡単な展示解説付マップを作成し、配布した。  中国語ガイドブック表紙、裏紙  中国語ガイドブックの内容								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20
	音声ガイド貸出件数	67,663 件	—	—		76,743	69,552	74,367	67,663
	うち特別展	59,547 件	—	—		74,362	59,707	62,661	59,547
	うち文化交流展示	8,116 件	—	—		2,381	9,845	11,706	8,116
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				



中国語ガイドブック表紙、裏紙



中国語ガイドブックの内容

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善								
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 吉田勇人					
実績・成果	20 年度は通常行っている特別展アンケートに加え、来館者満足度調査、非来館者意識調査を実施した。調査結果については東京国立博物館来館者研究会（リーダー井上企画課長）で分析し、21 年度に具体的な改善策を提言する予定である。 ○平常展満足度調査（20 年 10 月 1 日～21 年 3 月 31 日） 回収サンプル数 522 件 満足度 84. 6% ○非来館者意識調査 インターネット調査及びグループインタビュー ○特別展アンケート すべての特別展で実施し、概ね高い満足度を得ることができた。								
補足事項	・特別展アンケートでは、満足度の高いものが多かった。この結果を踏まえ、次年度以降の展覧会でも高い満足度を維持するよう、アンケートを積極的に活用していきたい。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	・平常展 ・薬師寺展満足度 ・フランスが夢見た日本展満足度 ・対決展満足度 ・スリランカ展満足度 ・大琳派展満足度 ・福澤諭吉展満足度 ・妙心寺展満足度	84. 6 % 84. 3 % 70. 9 % 85. 3 % 80. 0 % 84. 7 % 87. 4 % 73. 8 %			経年変化				
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。 ②一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的の実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調に成果を上げている。					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(4) 快適な観覧環境の提供 ②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者			企画室長 赤尾栄慶			
実績・成果	- 入館者アンケートを実施 平常展満足度 70% 回答数 758 件 (とても良い 41%、良い 29%、普通 15%、あまり良くない 4%、よくない 4%) - 特別展覧会「暁斎」満足度 94% 回答数 1,337 件 (良い 80%、まあまあ良い 14%、どちらともいえない 2%、あまり良くない 1%、良くない 1%) - 特別展覧会「japan 蒔絵」満足度 95% 回答数 807 件 (良い 71%、まあまあ良い 24%、どちらともいえない 2%、あまり良くない 1%、良くない 1%) - 特別展覧会「京都御所ゆかりの至宝」満足度 87% 回答数 1,036 件 (良い 57%、まあまあ良い 30%、どちらともいえない 5%、あまり良くない 3%、良くない 1%) - 特別展等に関する専門家の展覧会評を求め、「博物館だより」に掲載した。								
補足事項	- 平常展及び特別展覧会において入館者アンケートを実施した。特に回答する必要のある場合には、電話等で回答した。特別展覧会に関して、特に高い評価を得ている。 - 特別展覧会「絵画の冒険者 暁斎」に対する専門家の展覧会評を「博物館だより 160 号」に掲載した。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20
	平常展満足度	70%	—			71%	73%	72%	70%
	暁斎展満足度	94%	—						
	蒔絵展満足度	95%	—						
	御所展満足度	87%							
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。 ②一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(3)快適な観覧環境の提供 ②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善									
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	渉外室長 添田美由紀						
実績・成果	・平常展アンケート（全開館日） 回答数 1,202 件（良い67%、普通10%、良くない4%） ・英語版平常展アンケート（全開館日） 回答数 49 件 ・特別展アンケート 「天馬—シルクロードを翔ける夢の馬—」 回答数124件（良い81%、普通11%、良くない4%） 「国宝 法隆寺金堂展」 回答数391件（良い75%、普通16%、良くない7%） 「西国三十三所—観音霊場の祈りと美—」 回答数342件（良い89%、普通7%、良くない1%） 「第60回 正倉院展」 回答数624件（良い75%、普通15%、良くない7%） ・特別展について、専門家からの展覧会評を「博物館だより」に1回掲載									
補足事項	・正倉院展アンケート結果のうち、「良い」が昨年度に比べて7ポイント上昇し、「良くない」が5%減少した。 ・正倉院展アンケート回答数が前年度より減少した。アンケート記載ブースが休憩所がわりに利用され、記載する場所が塞がれていたことが原因と思われるので、次回は立ったまま記載できるスタンドを導入するなど、アンケートが書きやすくなるよう改善する。									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20	
	平常展満足度	67%	—	—	経年 変化	66%	68%	66%	67%	
	天馬展満足度	81%	—	—		—	—	—		
	法隆寺金堂展満足度	75%	—	—		—	—	—		
	西国三十三所満足度	89%	—	—		—	—	—		
	正倉院展満足度	75%	—	—		71%	67%	68%	75%	
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)									
中期計画記載事項	一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調に成果を上げている。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ② 満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善								
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 樋口理央					
実績・成果	①館内に設置しているアンケート調査から得られた意見・要望に対して、可能なものについては改善を行った。 ②九州大学との共同研究により、ユニバーサルデザインによる空間評価等の結果から、館内のサインの見直し、エントランス内の案内所の再配置等を計画している。								
補足事項	①・クレームの多かった案内版不足を是正。(JR二日市駅でのアクセス掲示、ホームページでの分かり易いアクセス案内等) ・エントランスに休憩スペースが不足していたため、ベンチを増設した。その結果、館内アンケートによる休憩スペース不足への苦情が前年度から比べ約1／3に減少した。 ②九州大学の森田研究室との共同研究により、館内における不統一だったサインを統一しつつあり、無駄に多かった掲示を削減した。また、今後エントランスに来られたお客様に対して、文化交流展室(4階)の展示(特にトピック展)に足を運んでいただけるようにどのように掲示を充実するかを中心に研究し、次年度においては仮の掲示を用いて調査を行い、更なるサインの改善を図る。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				



ベンチ増設

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等の改善								
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 吉田勇人					
実績・成果	ミュージアムショップやレストラン等の利用者サービスの向上に努めた。 また、ミュージアムショップに関連した企画等に協力した。 - ミュージアムショップを運営する東京国立博物館運営協力会(以下「協力会」という。)と、「ミュージアムショップグッズ開発等会議」を開催し、商品の充実及びオリジナル商品の製作について協議・検討を行った。 - 新たな絵はがきについて、3年計画中2年目の今年度は、24種類を製作した。 - 当館が監修した新たなミュージアムグッズとして、館蔵品のフィギアおよびレプリカを製作した。 - 昨年度、リニューアルオープンしたミュージアムショップ(デザイン室が企画・監修として参加)では、前年度に比べ、来館者一人当りの売上額が増加した。 - レストランでは、正月にお年玉プレゼントや甘酒の振る舞いサービスの実施、季節毎にメニューを変える等サービスの向上に努めた。 - 昨年度リニューアルオープンしたカフェの「アジアンカフェ」は好評であり、前年度に比べ売上げが増加した。								
補足事項	- 若い世代にもアピールできる商品として、世界中にコレクターが存在するフィギアである「ベアブリック」の「風神雷神」版(館蔵品をモチーフとしたもの)を、新たに製作販売した。 - 新たなミュージアムグッズとして、館蔵品の如来像を忠実に80%縮小した、完成度の高いレプリカを製作した。(21年度から発売予定) - ミュージアムグッズについては、絵はがきやレプリカだけでなくその他の商品についてもその都度協力会と協議を重ね、新たな商品の開発に貢献した。 - ミュージアムショップのリニューアルは、お客様からの好意的な意見をいただいただけでなく、成果をあげることにもつながった。 - 今後も、ミュージアムショップやレストランと連携協力を図りながら、利用者のニーズをより適切に反映できるよう努めていく必要がある。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。 ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調に成果を上げている。					



如来像レプリカ

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ③ ミュージアムショップやレストラン等の改善								
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長	大西真一				
実績・成果	・当館の観覧者サービスの一環として欠かせないものとしてミュージアムショップやレストランがある。これらの運営は、当館が主体となって運営すべきであるが、人員や財源等の問題から長年に亘って外部業者に委託を行っている状況にある。 【ミュージアムショップ】 ・絵はがき販売総数は 303 種類におよび、そのうち当館所蔵品をデザインとして監修した絵はがき数は 139 種類に上っている。 ・当館とミュージアムショップが協力し、オリジナルグッズとしてエコバック及び収蔵作品の一部をモチーフとした風呂敷を新規制作した。これらのグッズは、外国人観覧者に好評であった。 【レストラン】 ・季節に応じたメニュー（抹茶ミルク、黒みつオーレ）を取り扱うことで利用者へのサービスを図った。 ・新メニュー（和風きのこスパゲッティ・カルボナーラ等）を増やす等、利用者の要望に応えた。 ・これらは、レストランを利用した人達のアンケート調査を元に改善したものである。 ・利用者と直に接するミュージアムショップやレストランの従業員を対象に接客研修を行った。				 ミュージアムショップ				
補足事項	・博物館のミュージアムショップやレストランは、利用者にとって快適に過ごせる時間と空間、さらにやすらぎの場でもあるので、より充実を図っていく必要がある。 ・エコバックは、特別展覧会図録が収まる大きさであり、京博のロゴをデザイン化されたもので、使用されるごとに博物館の広報の担い手となっている。 ・新規のオリジナルグッズは、幅広い層に購入が可能なワンコイン料金(500 円、100 円等)の商品を開発し、より一層の利用者への利便性向上を図った。 ・展覧会ごとに関連グッズや関連書籍等を取り揃え、利用者へのサービスを行った。 ・博物館に足を運ぶことが出来ないお客様には、通信販売でも対応した。 ・レストランメニューに「今だけ、季節限定」と古都をイメージした商品を引き続き拡充していく。 平常展示館建て替え工事に伴いレストランの営業は、特別展覧会期間中のみの変則的なオープン・ミュージアムショップについては、店舗の確保が出来ず、当分の間通信販売となる。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20
			—	—					
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立って観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。 ③ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調								



ミュージアムショップ

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号

2333

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(3)快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等の改善									
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	渉外室長	添田美由紀					
実績・成果	・レストランメニューをリニューアル（単品メニューの充実） ・「正倉院展」では常設のレストラン及びミュージアムショップ以外に、敷地内に飲食店及びおみやげ店が出店									
補足事項	・レストランは、昨年度セットメニューを充実させたので、今年度は単品メニューを充実させた。 ・平常遷都1300年記念グッズ（ピンバッジ）の販売を開始した。									
						レストラン新メニュー				
										
						正倉院展おみやげ店				
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20	
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)									
中期計画記載事項	ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ③ ミュージアムショップやレストラン等の改善								
担当者	担当部課	広報課	事業責任者	広報課長	石橋和夫				
実績・成果	① 特別展、文化交流展の展示替えやイベントに合わせてミュージアムショップの商品陳列を見直した。 ② レストランでは特別展に関連したメニューを提供した。								
補足事項	① 文化交流展の文化財をモチーフにした商品を開発し、開館3周年記念商品や詰め合わせセットを販売した。また、特別展のテーマに沿った商品陳列を行った。 ② 特別展に関連したメニューを提供した。 特別展「工芸のいま 伝統と創造 九州沖縄の作家たち」では福岡の「筑前煮」、北九州の「鯖のぬか炊き」、さつまいもあん（鹿児島）をキンカン（宮崎）に見立てた「唐芋金環風」などを取り合わせた期間限定弁当を提供した。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調に成果を上げている。						



開館3周年記念詰め合わせ商品